

折紙探偵団新聞

イベントで
腹一杯の
35号

折紙研究ノート (5)

—雪華：「透かし折り」と
「隠れたパターン」— 鈴木邦雄

私の雪華は表と裏が明瞭で、完成作品の上側には全て紙の表面が出ます。実際の雪華同様、一つの基本型からほとんど無限とも言い得るヴァリエーションを制作できます。

折紙では、従来完成作品の外形パターンを問題にしてきました。しかし、前回お話しした紙の重なりによって形成される透かしパターンは、美しさや面白さの点において、外形パターンにヒケをとらないと思います。

今回は、今後の有望な研究課題になると思われる、私が「隠れたパターン」と呼ぶ第3のパターンを取り上げます。それは、作品完成時には作品内部に隠れてしまうものです。しかし、折紙作品の制作がある決まった手順に従ってなされるということは、同時にある規則性を内部に封じ込めていく過程でもあると言えます。

隠れたパターンは、誰でも子供の頃に遊んだ切り絵と共通の性質を備えています。色紙を何度か折り重ねておいて、鋏でいろいろな図形を切り抜いてから広げるとそこには思わぬ美しいパターンが現われてきますが、それは折る／切るという操作によるパターンの作成に他ならないと同時に、折る／切るという操作を施した後再び元の状態に立ち返ることによって初めて認識できるものです。

作品の表面部分と裏面部分が、それぞれ元の正六角形紙のどこに分布しているかを調べると、作品完成時に認められるのは異なるパターンが浮かび上がってくるのが分かります。続いて、前回同様、折りの次数を問題にします。私の雪華Aの中心部分では、次数が1, 2, 3, 5,

7, 9および11の部分が計11個あります。各次数部分が元の正六角形紙のどこに分布しているかを調べると、それらがいずれも独自のパターンを持っていることが分かります。個人的な好みをも別としても、こうして形成されるパターンの中には、幾何学的デザインとして面白いものがあることは、広く認められるでしょう。各次数部分が織り成すパターンの全てが一個の作品内部に共存します。透かしパターン同様、それらの任意の組み合わせによる複合パターンも取り出せます。

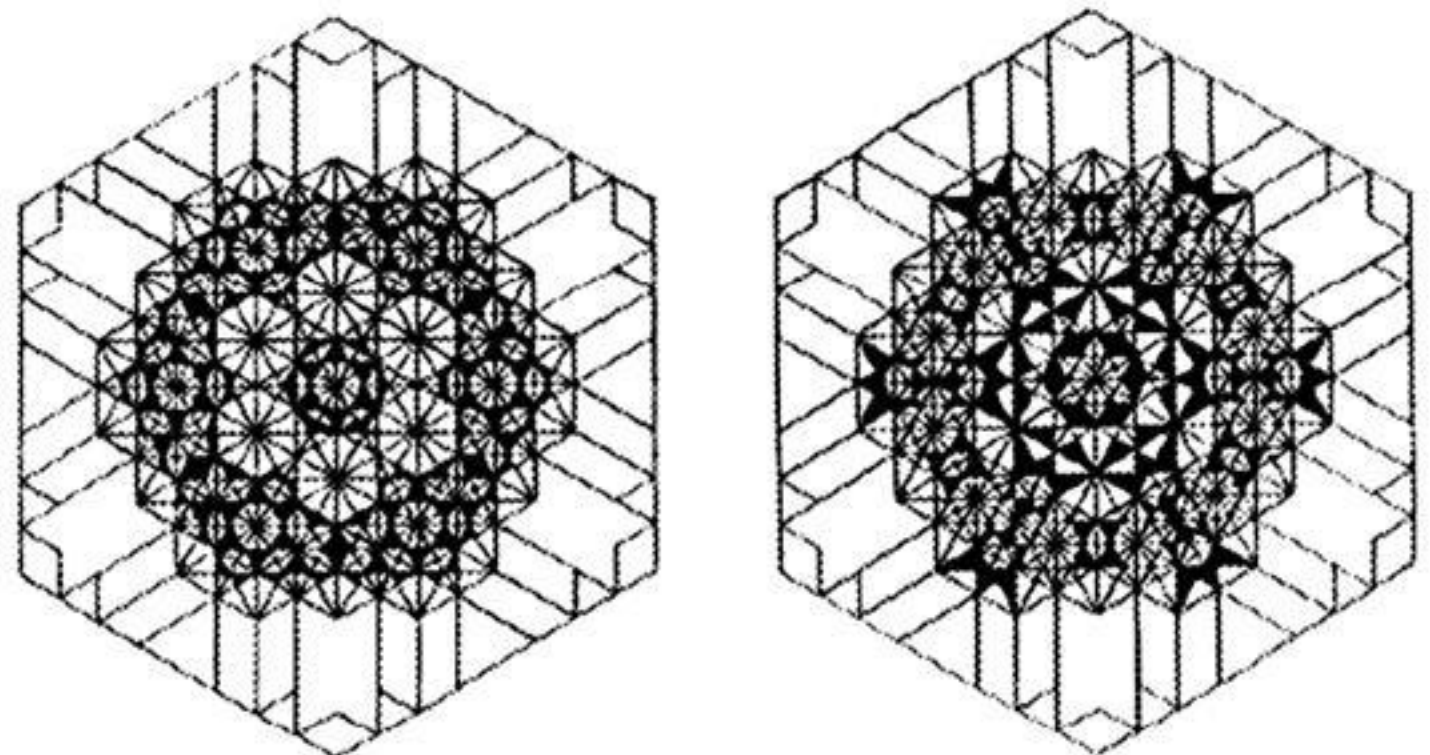
さらに、次数に基づくものの他に、完成作品における紙の重なり順序（「折りの序数」または単に「序数」と呼ぶことにします）に基づくものも抽出することができます。それらは、次数によるパターンと部分的に重複しますが、それぞれが独特のパターンを持っており、複合パターンを形成することはもちろんです。

隠れたパターンは、作品完成後、再び最初の1枚の紙にまで立ち還っ

た時初めて姿を現わす点で、1枚の平面的な紙という素材からさまざまな造形を生み出す折紙の世界の、むしろ原点に戻ることをわれわれに要求しているようにも思うのです。隠れたパターンこそが折紙における造形の多様性を生み出す不思議のカラーとその本質を暗示していると言っても過言ではないでしょう。

次数と序数に基づく2種類の隠れたパターンが互いに密接に関係し合っていることは言うまでもありませんが、それぞれが独自の個性を主張しているように思われます。両者の任意の組み合わせに基づく複合パターン（「雑種パタン」）もデザイン的に見て面白いでしょう。

結局、ほとんど無限に制作することのできる私の雪華中もっとも単純な一個の作品にも、きわめて多種多様の幾何学的パターンが折り込められており、複合パターンをも考えるならば、そこにはほんとうに無限ともいべきパターンが存在することになるのです。その複雑さの程度が折りの次数と関係していることはもちろんです。折るという操作の回数が増すにつれ、こうしたパターンの種類と多様性は加速度的に増加していきます。ここに、折り紙の世界の根源的な秘密があるように私には思われるのです。（つづく）



A型結晶の「隠れたパターン」。
左は次数によるもの。右は序数によるもの。
いずれも「複合パターン」の1例。

折紙辞典

折紙辞典編纂室編

主幹
前川淳



な-の

ないしょく【内職】《名》 大量のパーツを必要とするユニット折り紙を折っているときに、ふとこれをしているのではと錯覚するもの。

裸電球の下、こめかみに膏薬を貼り、乳飲み児を背負って励むと一層効果的。

なかよしおりがみ【仲良し折り紙】《名》 一枚の紙から動物の雌雄を折り出すことで生命の神秘を表現した一連の作品群。山田勝久氏の創案と命名。「あかちゃんはおかあさんからうまれるのに、どうしておとうさんにもにているの」「赤ちゃんができるときにお父さんも手伝うからよ」「こんどあたしもてつだう！あたしにもにるかなあ」以上、小学校三年生なおちゃんの意見。

ないしんのていり【内心の定理】《名》 以下の内容の初等幾何の定理。三角形のそれぞれの頂点の角二等分線は一点で交わり、その点は三角形の内接円の中心（内心）となる。

「つまみ折り」の折り目が、この定理の実践になっている。気づいていたひとは以前にもいただろうが、明示したのは伏見康治氏である。気づいていただけでは「内心の定理」

ながのこうへい【長野耕平】《人名》 日本折紙協会の最大の功労者。電話が必ず長話になるので長話耕平さんと呼んでいた。93年没。長話もできなくなった。

なかのどくおうてい【中野獨王亭】《人名》 鳥の折り紙を得意とし、犬の理事長、鳥の獨王亭と呼ばれる。

知らないひとが聞いたなら何のことかと思うだろう。ナニナニのナニと言え、次のようなものもある。剣士の北条。これは凛々しい。薔薇の

川崎。これは妖しい。骨の一生。何だか分からない。骨にも、誕生、成人、骨粗鬆症、化石といった一生があるという話かと思ってしまうが、「骨格標本の吉野一生」ということだ。悪魔の前川。やめてほしい。なかにしけんいち【中西健一】《人名》 カマキリの中西。折紙探偵団インターネットサイト開設の発案者。発案者は制作者となる義務を有する。などと、プレッシャーをかけたりして。

なかわりおり【中割り折り】《名》 折り鶴の頭のように、山折りの一部分を谷折りに変えることで作られる折り目の構造。あるいはその折り目を作る技法。折り紙愛好家以外には通用しない専門用語なので、講習会などで使ってはいけない。「中を割って折ります」と言うべきである（同じような気が・・・）

にしかわせいじ【西川誠司】《人名》 折紙探偵団団長。初代団長の引退の意をうけ、某月某日、例会の出席者の総意によって選出された。某月某日としか書けないのは議事録がないためで、会合が秘密の儀式となっているためではない。幅ひろい見識と周囲への心配りを忘れない性格、折り紙に対する深い情熱、大きい胃袋など、団長として申し分のない長所を併せもっている。→TVチャンピオン

にじゅうなみがたかてんきょくめん【二重波型可展曲面】《名》 ミウラ折りの正式名称。縦方向と横方向のふたつのジグザグ（波型）で構成され、かつ展開（及び折り畳み）が可能な構造であることを示している。

にじゅうなみがたかてんきょくめん【二十並型勝てん局面】《名》 二十歳過ぎて並の人になって世間の壁にあたることを示している。

にそうぶね【二艘船】《名》 伝承折り紙のひとつ。ひとつだがふたつになっているひとつ。表記がこれで正しいか否かについては諸説ある。双胴船のような外形から「二双船」も捨てがたいが、二も双もダブルという意味で、2x2で4になってしまう。「尼僧船」－「尼さんの乗った船」も捨てがたい。

にほんおりがみきょうかい【日本折

紙協会】《団体名》 日本で最も会員数の多い折り紙愛好家の団体。「世界で」ではない。オランダの協会が世界最大。それでも、機関誌「おりがみ」と「折紙探偵団新聞」の部数の比は、「週刊少年ジャンプ」と「月刊盆栽世界」ぐらいいはある。毎年一回開催されるシンポジウムは全国各地の温泉を転々とし、全国制覇と会員の健康増進に貢献している。→NOA

ぬさ【幣】《名》 神事に用いる捧げもの。様々なタイプがあるが、紙を稲妻状に細工した紙垂（かみしで）を指すのが一般的。御幣（ごへい）。折り紙のルーツと言い切ってしまうと語弊がある。

ねあげ【値上げ】《名》 探偵団新聞は来期から値上げ。折り畳んで封筒に詰める作業を省いて郵便料金が高くなったためである。折り畳んで封筒に詰める作業を、裸電球の下、こめかみに・・・それはさっき聞いた。ねじりおり【捻り折り】《名》 川崎敏和氏の「薔薇」などに使われているらせん状の折り目とそれを作る技法。藤本修三氏の創案・命名である。氏がねじり出し、ひねり出した作品は、一冊の本になっている。

のあ【NOA】《団体名》 日本折紙協会の略称。旧約聖書のノアはNOAHである。いや、なに、「英知が足りない」などと言いたいのではない。のし【熨斗】《名》 のし鮑（あわび）の略。主役の鮑は忘れ去られ、そのパッケージを指す言葉となった。儀礼用の折形の代名詞にもなっている。シンプルな造形は、「その言葉に熨斗をつけて返してやるぜ」と言ってからスーパーコンプレックス作品を折り始めていては喧嘩にならないためである。

のり【糊】《名》 表舞台には登場せず、裏で大活躍をしているもの。

秘密諜報部員との類似から「ボン」&「ド」ともいう。

のり【海苔】《名》 海苔を一枚用意し、湿らせて折り鶴を折ります。天麩羅油で揚げれば、素敵につけあわせの出来上がり。食卓がぐっとにぎやかになります。詳しくは、テキスト（「をる」八号）をご覧ください。では、今回の「ビバ！ お料理」はこれまで。次回をお楽しみに。

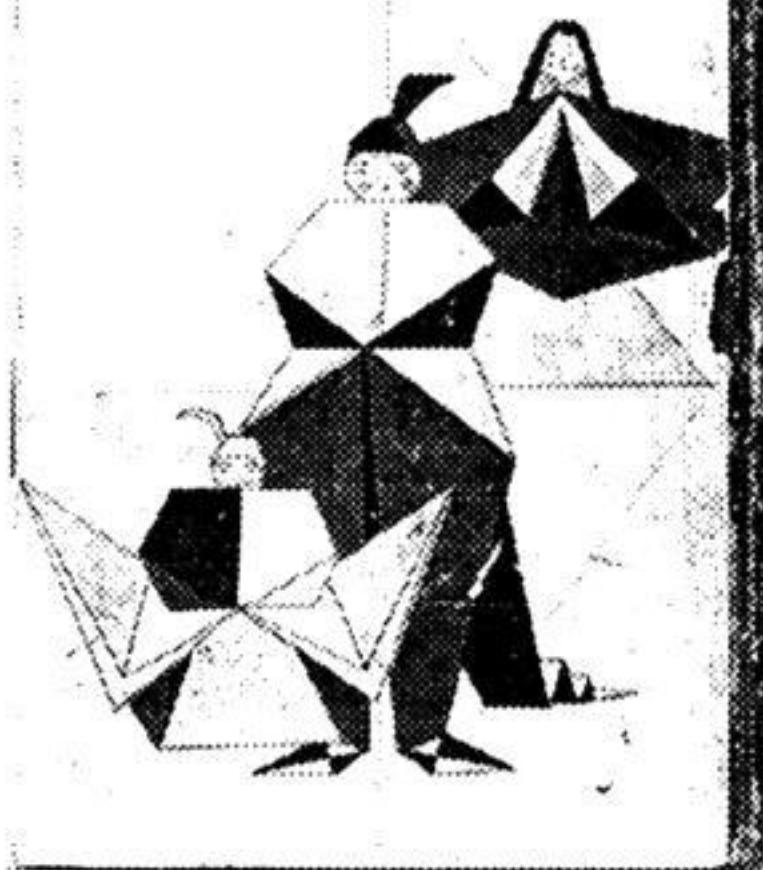
〔原点がみつかった〕

どういうきっかけで折り紙を始めたのかという質問をよくされていつも困っている。気がついたときには折り紙が好きだったからである。幼稚園に行くようになったころにはすでに鶴だの三方だのアヤメだのはたいがい知っていて、先生から教えられた鶴の折り工程が、母から習ったのより面白かったときの感動は今でも覚えている。

そのころ折り紙の本を一冊買ってもらった。表紙が取れてしまったあとも大切にしていた、内容もよく覚えているが、それが何という本で著者が誰だったのか、長いこと気になったまま、暇の母を尋ねる旅を続けていたのであった。

それが先日、神田の古書会館の棚の上で、五十何年かぶりで巡り会えたのだ。まさに涙のご対面である。題名は『オリガミキリガミ一百種』日本図書出版社発行で、初版は昭和7年、今回入手した本は昭和12年の第5版である。編者は扉には「岬出雲」、奥付で「岬 いづも」、背には「みさきいづも」となっていて、何となく女性めかしたペンネームのようだが、どんな人物かご存じの方があたら教えていただきたい。

種百一ミガリキミガリス



『オリガミキリガミ一百種』

「殊にキリヌキは私の考案した、新しい独特なものばかりです」と「著者より」のことばがあるが、私はこの本のキリヌキをやった記憶を持っていない。

本の中ではキリヌキで、題はキリガミというのんきさ。同じくヲル、ヲリカタなどと書いているのに表紙にはオリガミと書くおおらかさ。題名の「一百種」というのも全く内容に合っていない。私はこの「一百種」という書名を全く記憶していなかった。おそらく、その漢字が読めない年頃だったのだろうと思われる。

おりがみ庵

ひとりごと
岡村昌夫
第22回

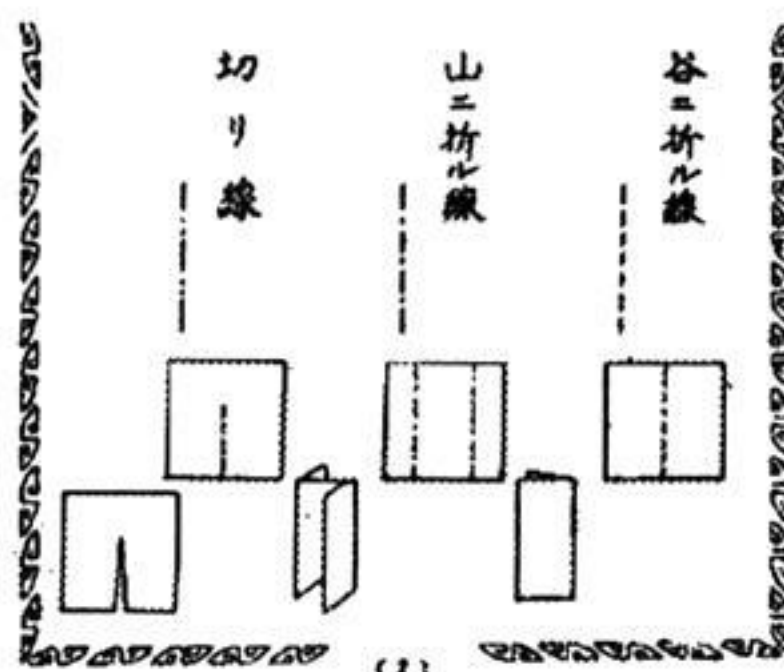
〔記憶の中の欠落部分〕

折り紙については殆ど記憶に狂いがなかった。朝鮮船（宝船）が出ていないので母に教わり、途中の「天神さま」をついでに覚えたこともつい昨日のように思い出す。

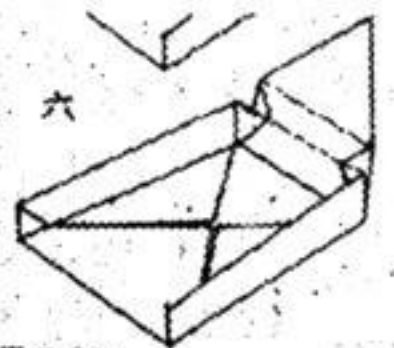
ヲビナ、メビナもしっかり覚えていた。やや自己流に変形してその後も雛の時期になると思い出しては折っていたものだ。後年、江戸時代の折り紙にごく自然に入って行けたのは三つ子の魂だったとつくづく思う。

その中で、全く記憶にないものが出てきた。まず「ホトトギス」と「チドリ」である。題材的に理解できなかったものであろう。「箕（み）」は覚えていたが、これはどんなものか母に尋ねた記憶がある。

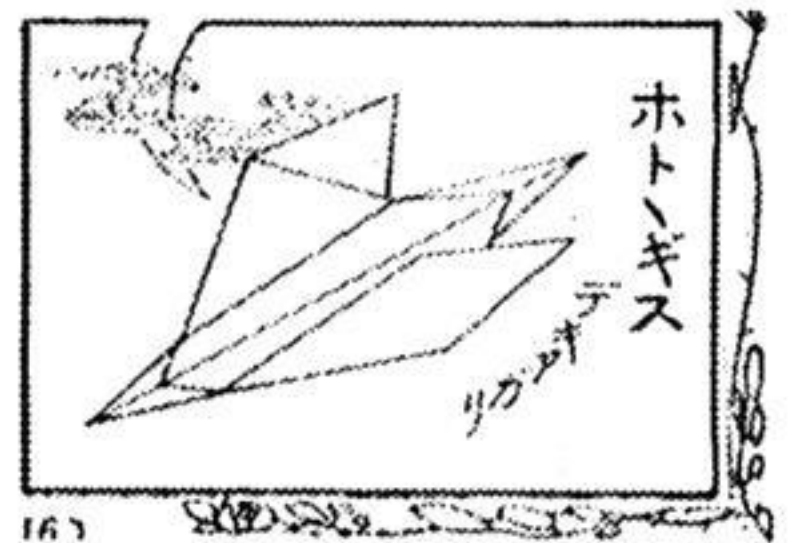
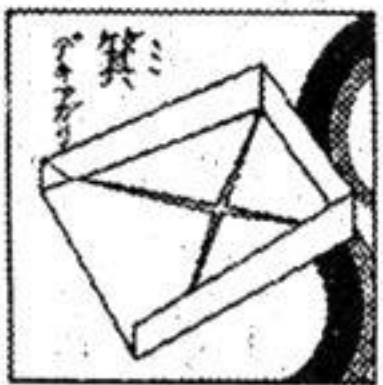
この本の目次によると、まず「◇折り紙」とあり「基礎折り方」「折り線」から始まり、86ページまで所謂伝承作品が67種、続いて92



ページまで熨斗類、次に「◇切り抜き」になって紋切りから「自由画キリヌキ」が120ページまで。それが121ページから突如いかにも増補したように折り紙になってしまうのだ。ここから最後の150ページまでは、新しく考案されたいらしい14種の作品群になっている。ところ



が、この最後の作品群は私の記憶の中に全く無いものであった。私が当時持っていた本はおそらく改定増補される前の版だったのだろう。



〔戦前の平和

だったころの匂い〕

「著者より」によると「バット人形や、バット細工」が載っていることになっているのに実際にはそれらは全く見当たらないから、その部分をカットして増補したのだと思われる。「バット細工」なら微かな記憶がないわけではない。その当時はまだ「ゴールデンバット」は厚紙の箱入りだったので、細工に使えたのである。やがて戦争の拡大とともに物資不足から箱は薄い包み紙に変わって、土瓶敷きなどは出来なくなってしまった。「敵性語」の「ゴールデンバット」も「金鶏（きんし）」に変更された。「バット人形・バット細工」はその意味で戦前の平和だった時代の匂いを伝えてくれるものである。この本の「モダン」な装丁とともに私の心の底に長い間消え残っていたのだった。

料理長のお奨め料理

[今日のメニュー]

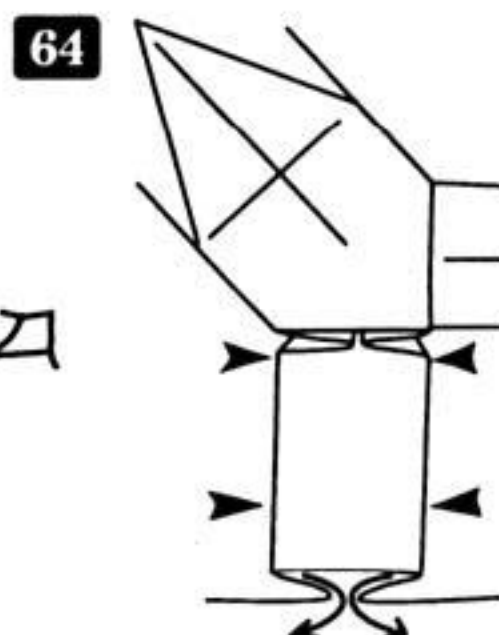
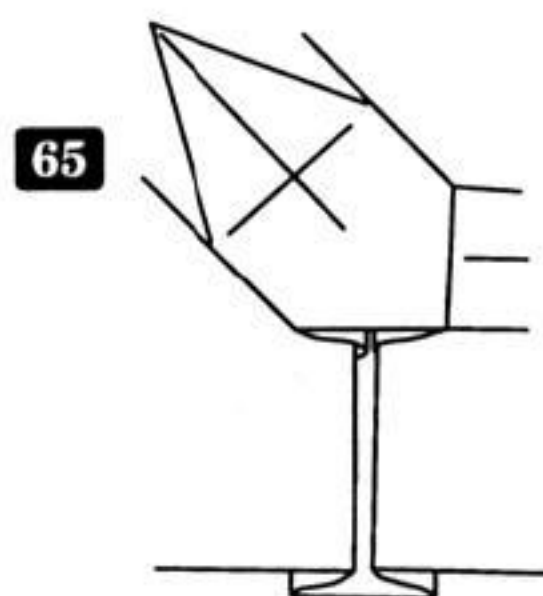
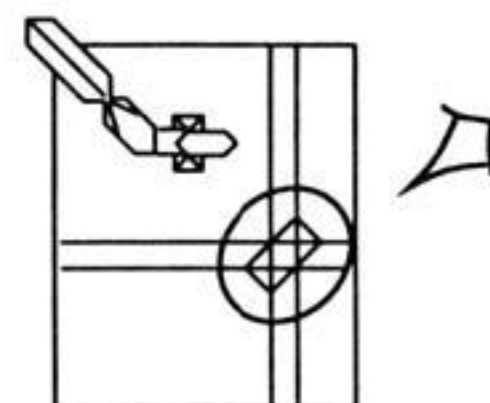
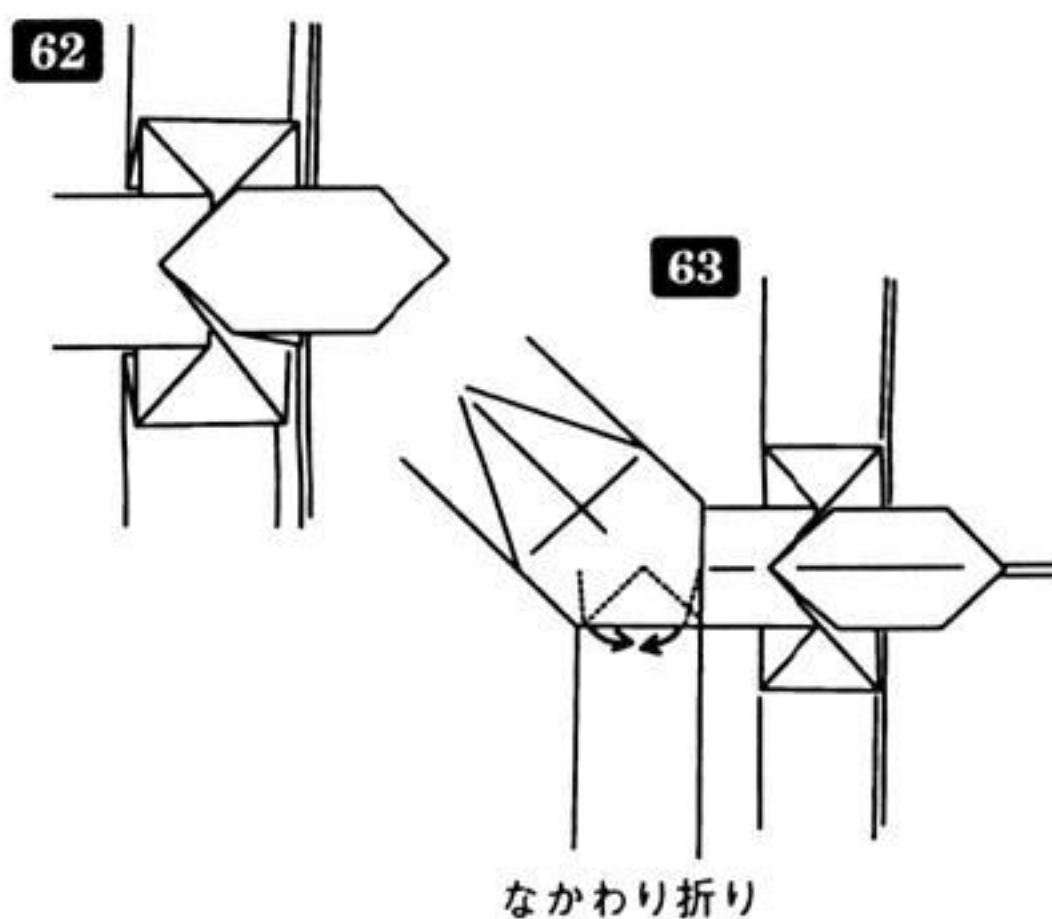
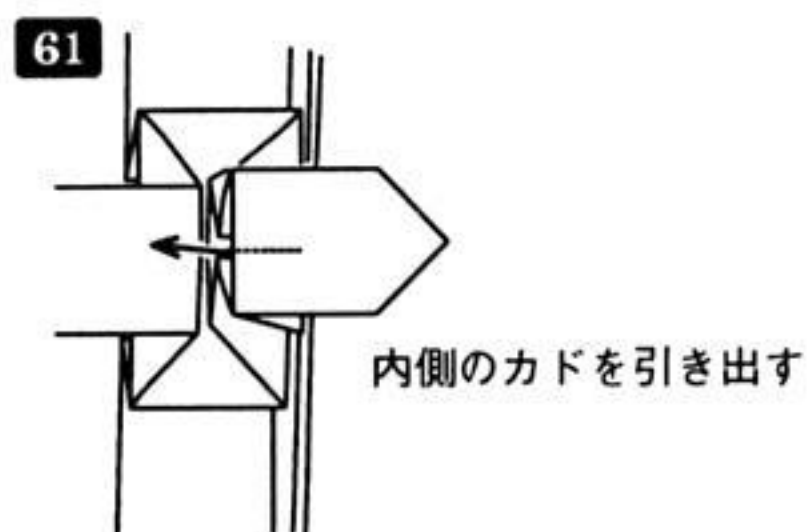
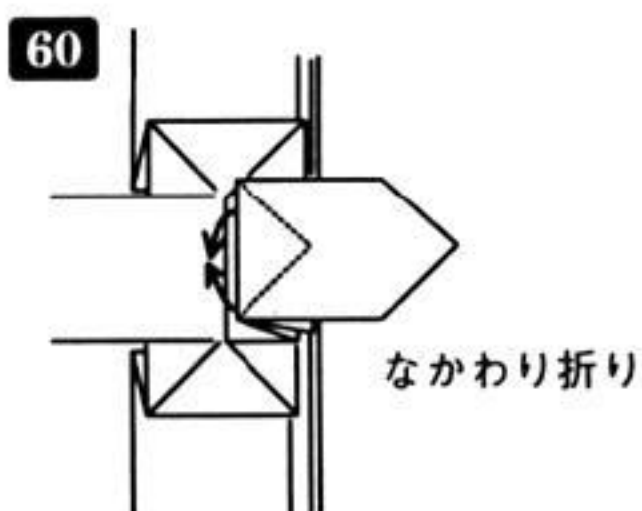
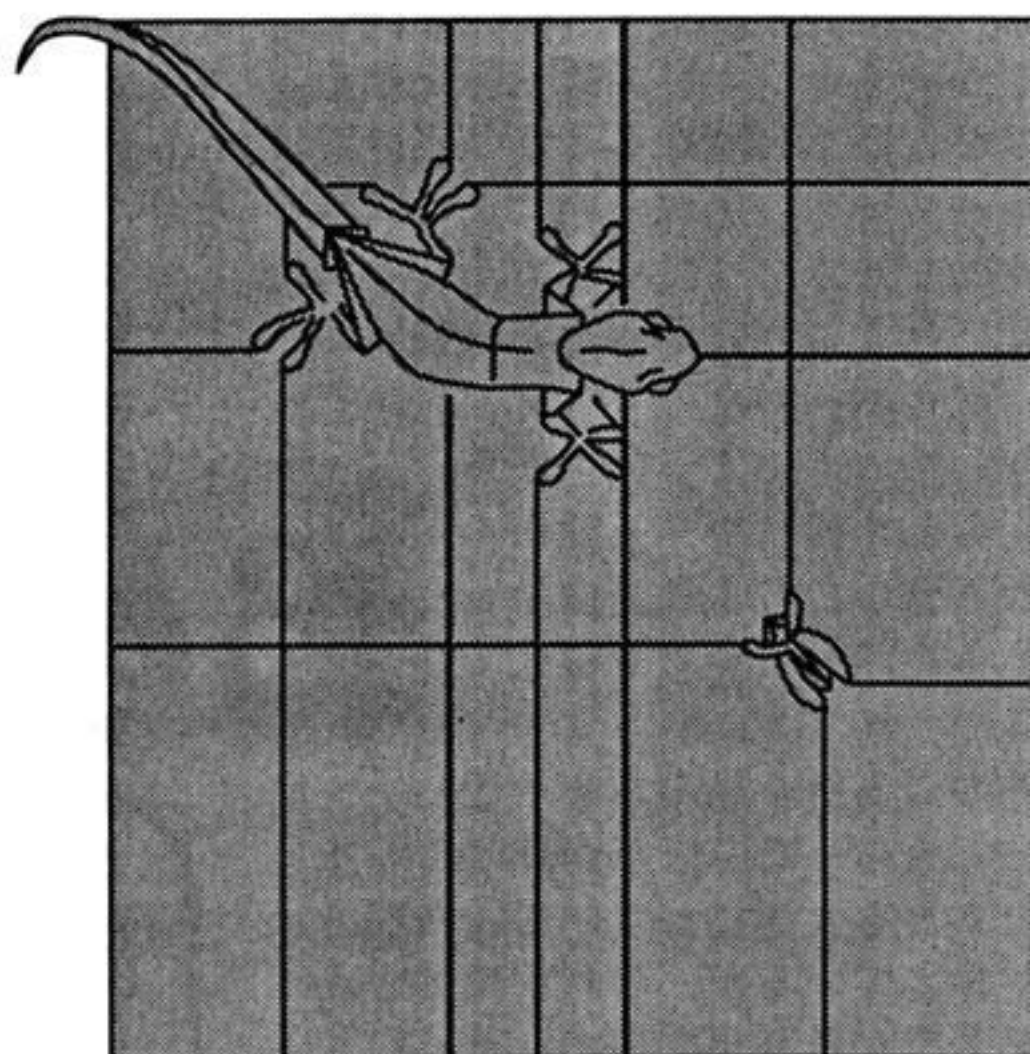
壁の上のトカゲとハエ (後編)

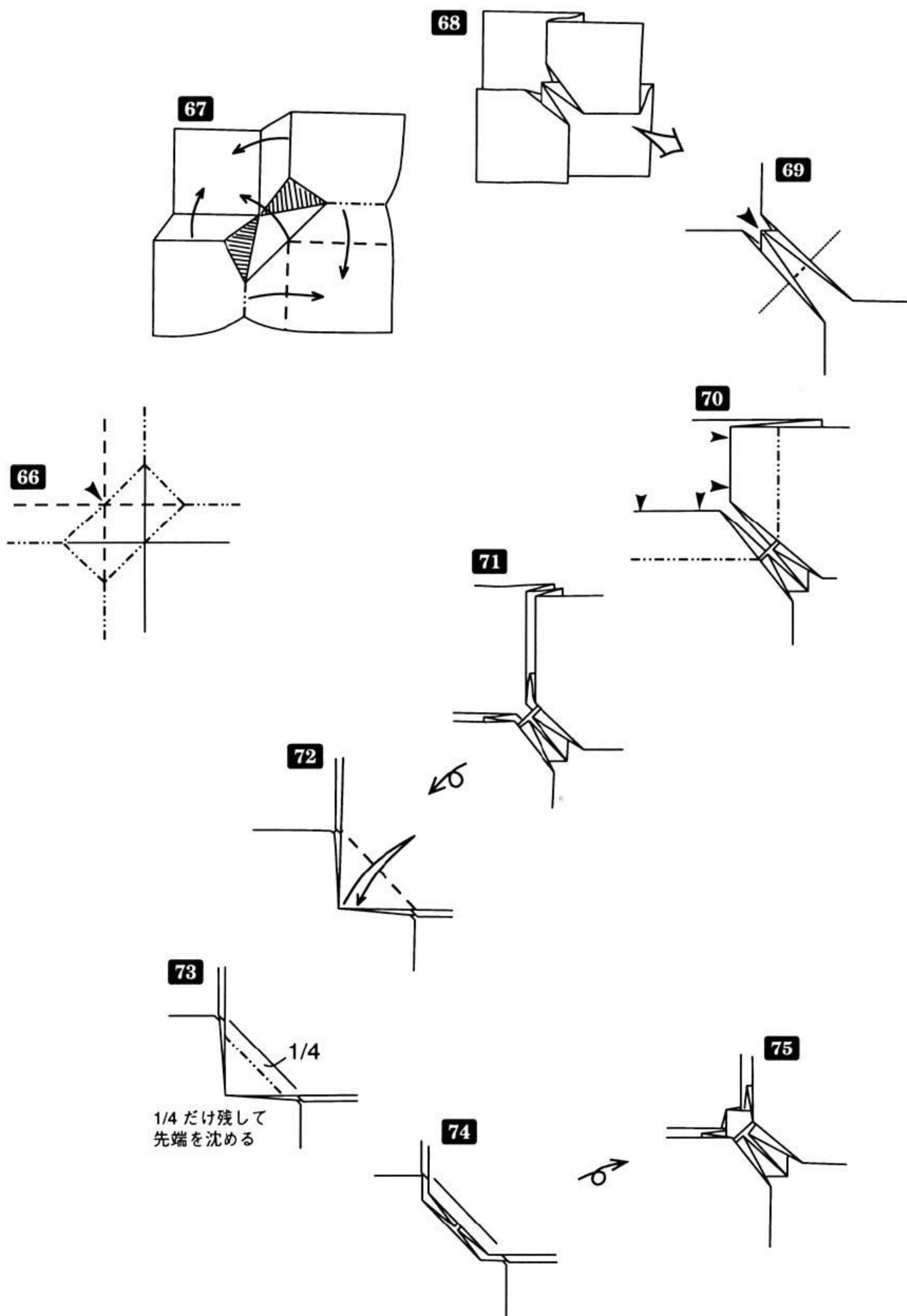
ヘルマン・ヴァン・グーベルジャン

Gecko and fly on a wall (Part II)

by Herman Van Goubergen

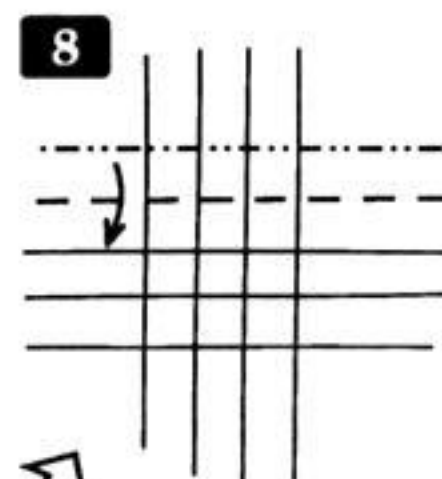
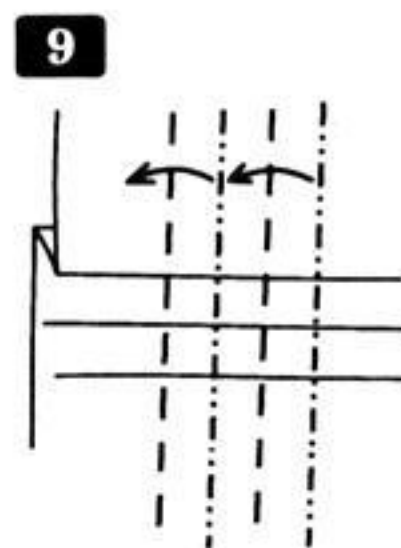
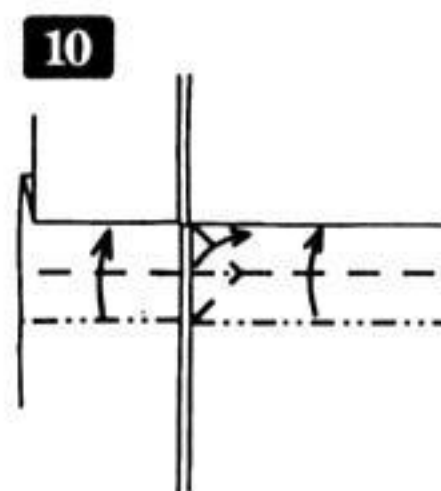
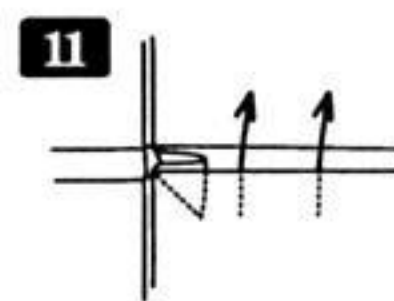
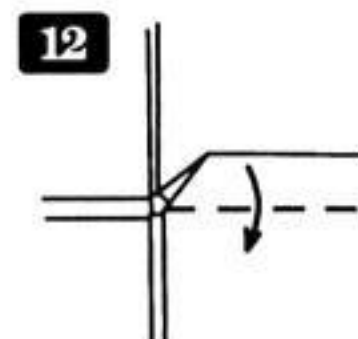
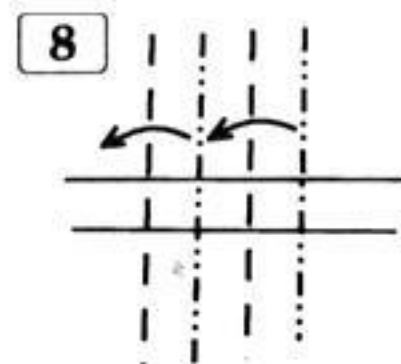
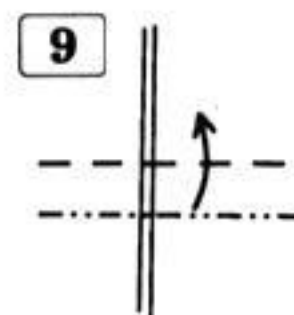
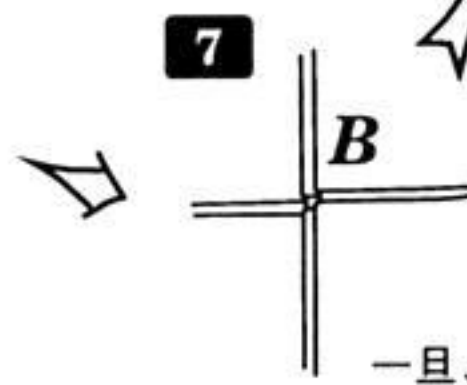
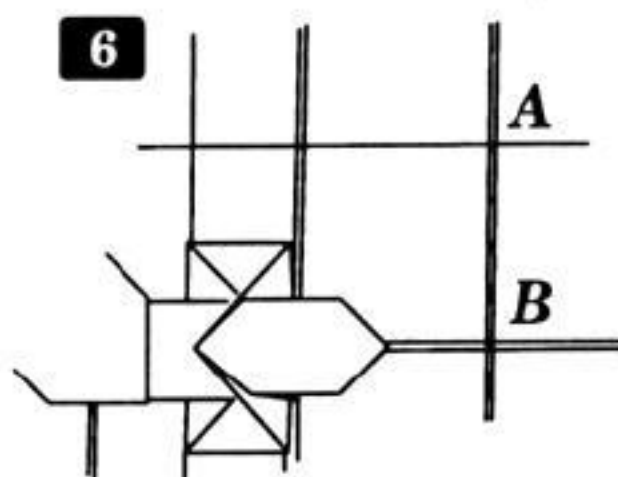
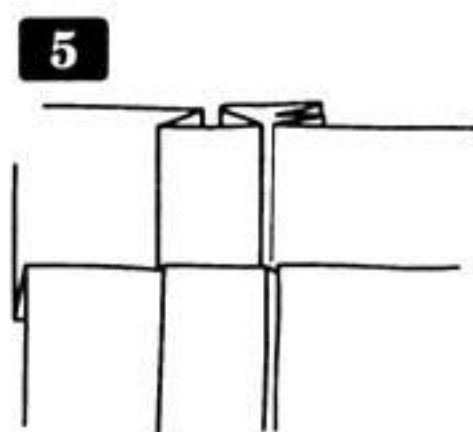
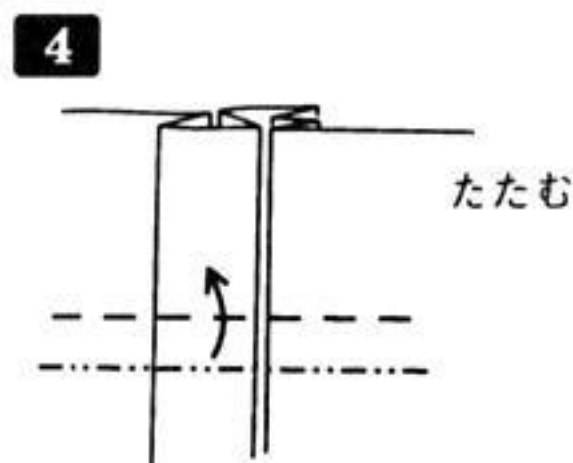
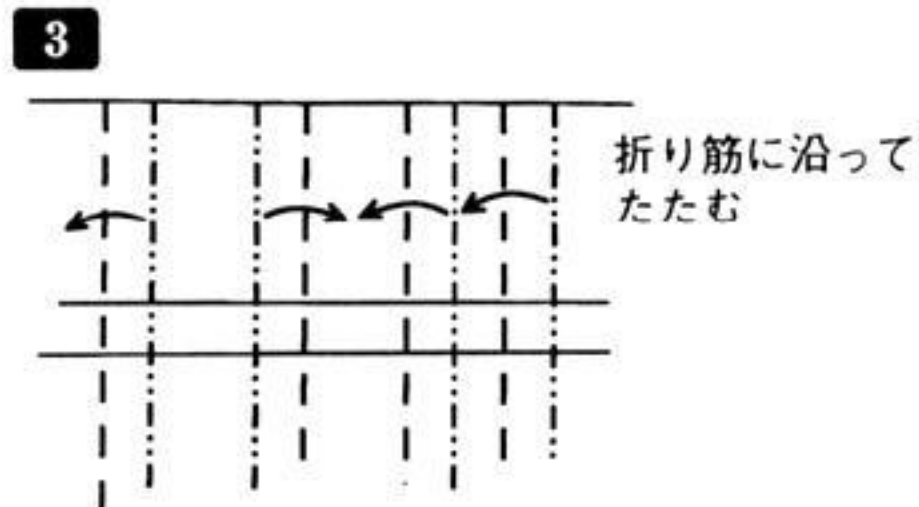
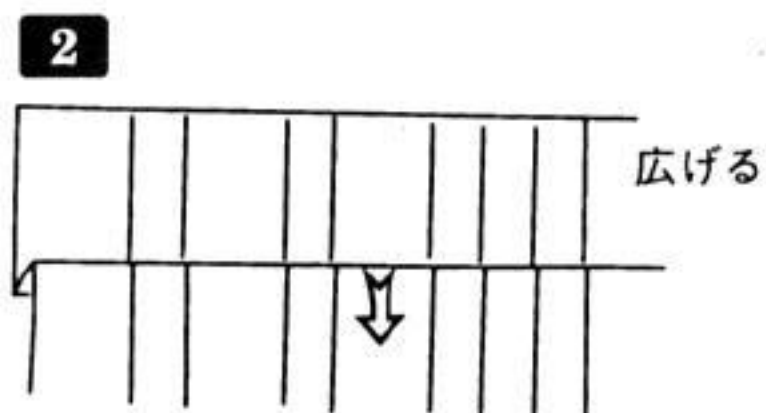
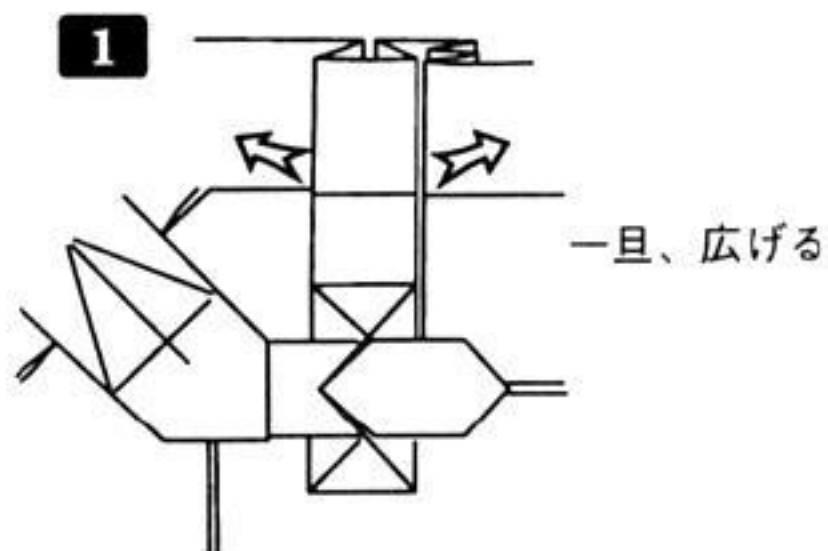
トレース&レイアウト・吉野一生
Trace & Layout Issei Yoshino



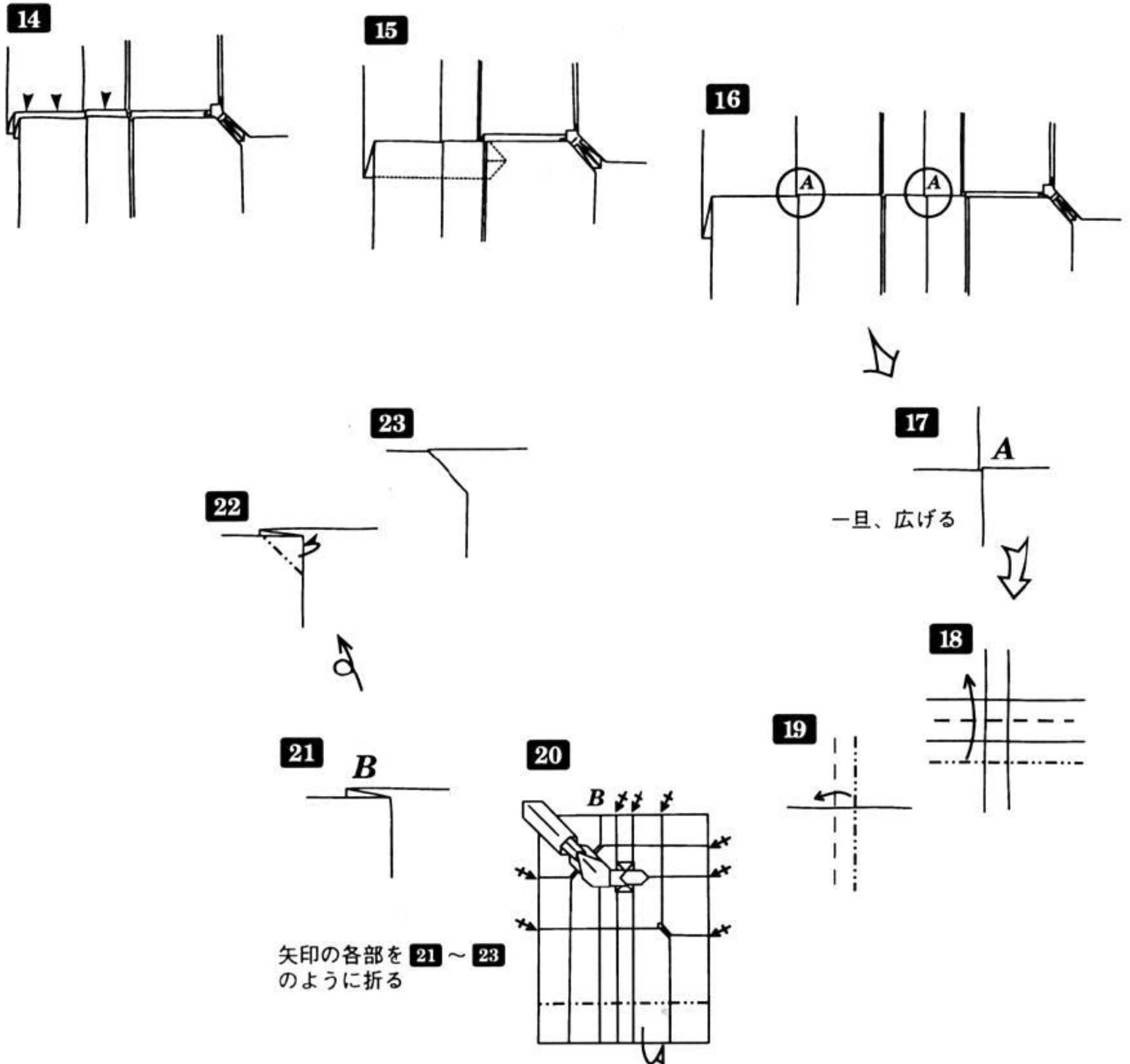


Stage III

すでに折られている部分の折り直しを行います。各部が広がりやすくなるので、これを防ぐために折りの工程の各部で留め（ロック）を行います。このステージ（あるいはステージ4）が終わったら、重たい本などを“壁”になる部分に一晩乗せておくと平らにきれいに仕上がります。

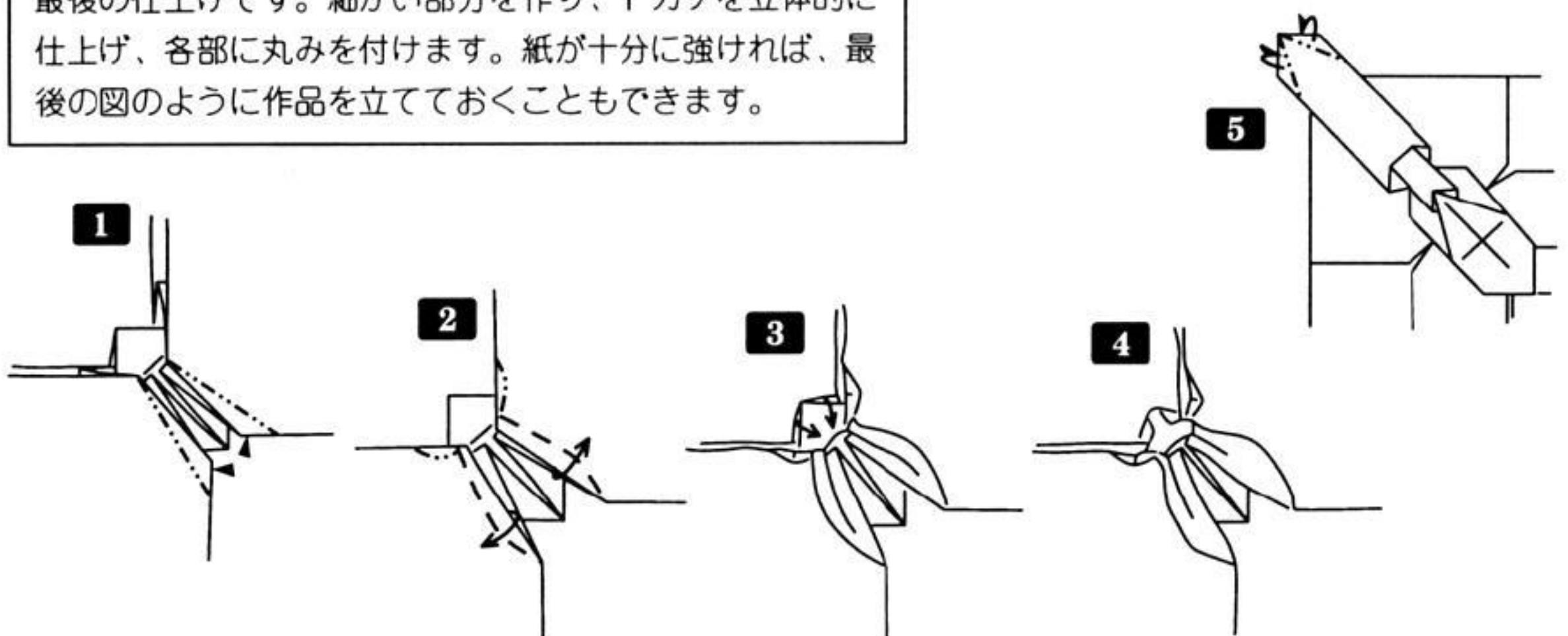


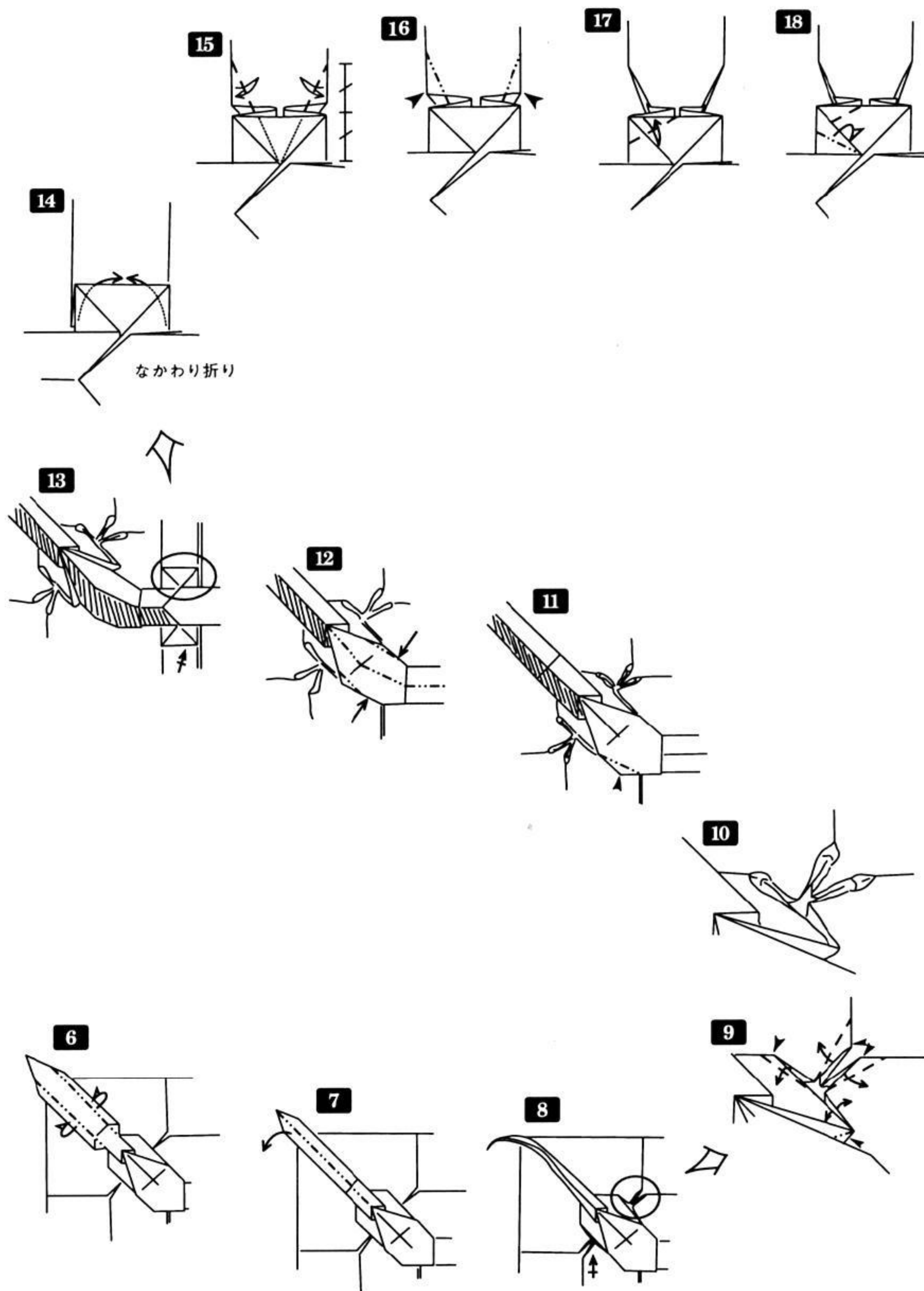
一旦、広げる

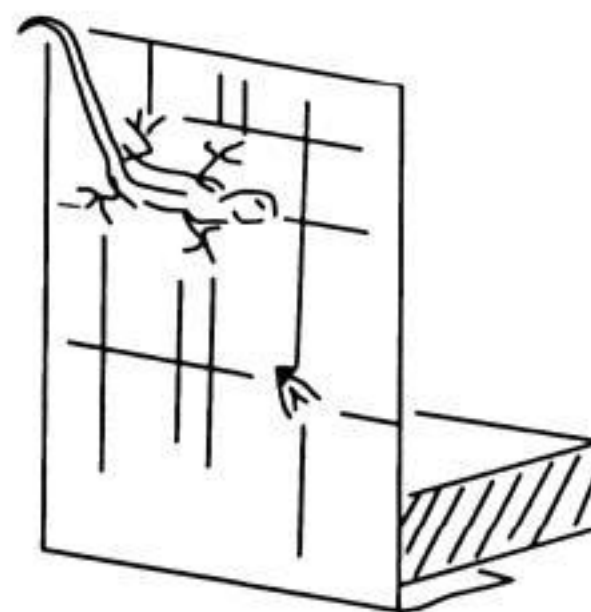
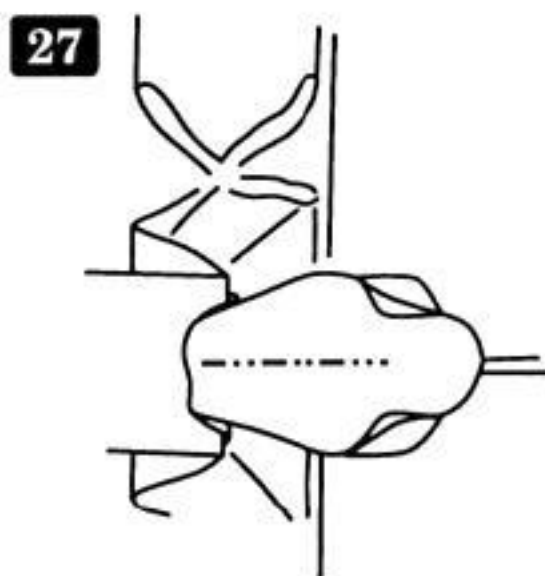
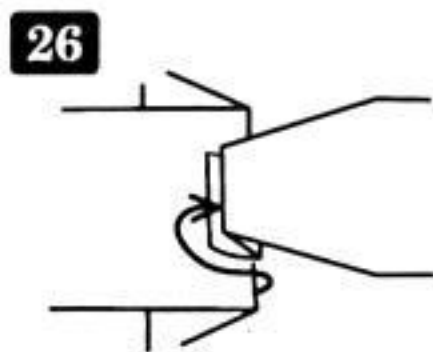
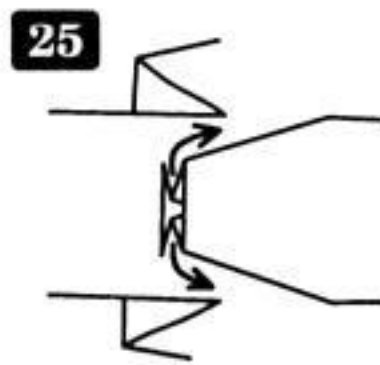
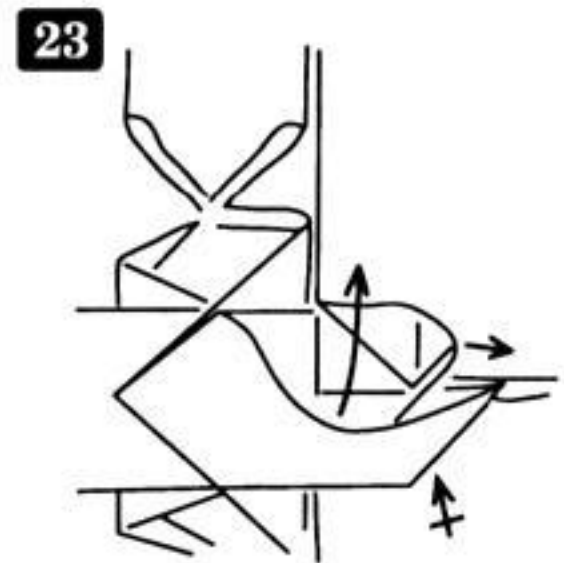
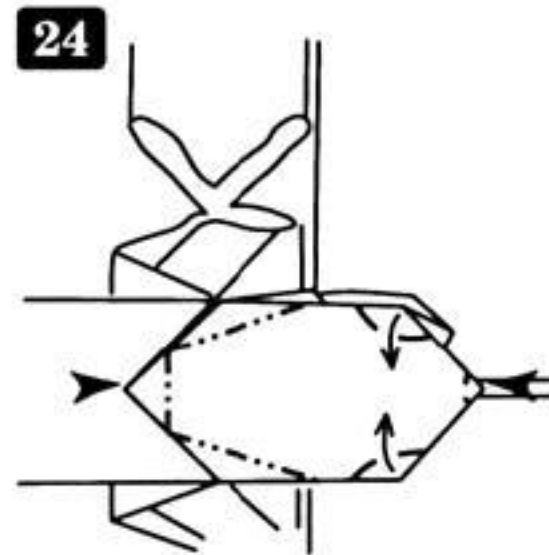
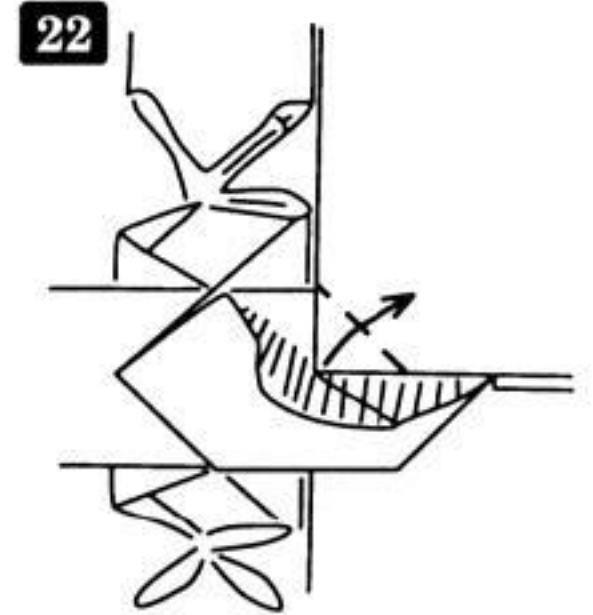
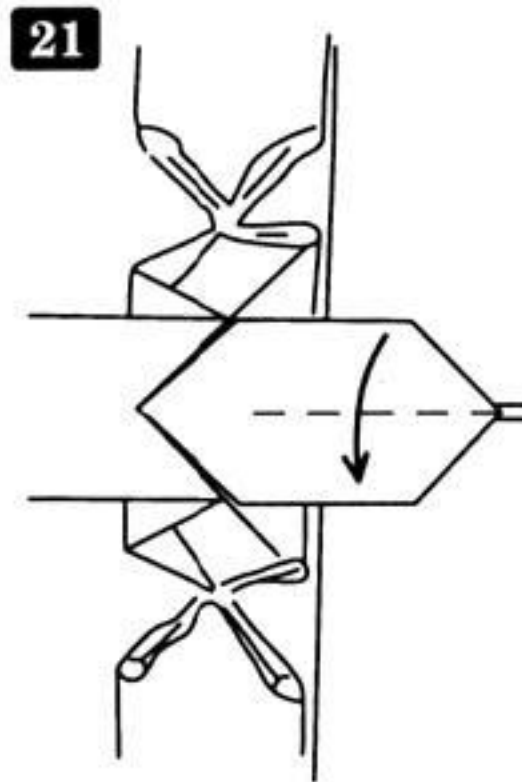
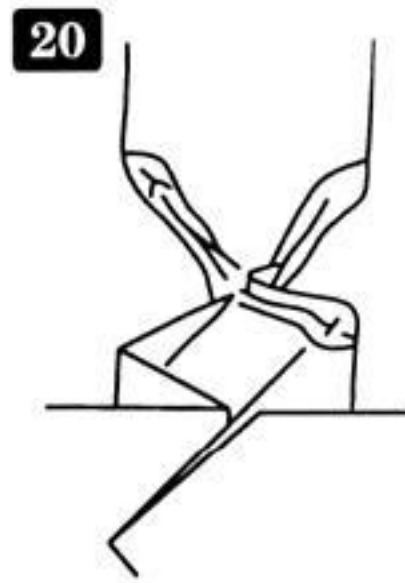
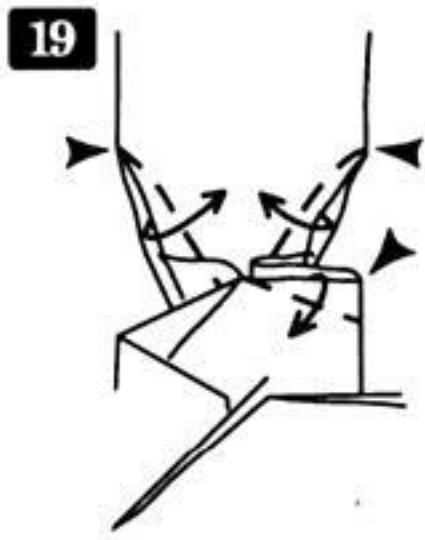


Stage IV

最後の仕上げです。細かい部分を作り、トカゲを立体的に仕上げ、各部に丸みを付けます。紙が十分に強ければ、最後の図のように作品を立てておくこともできます。







できあがり

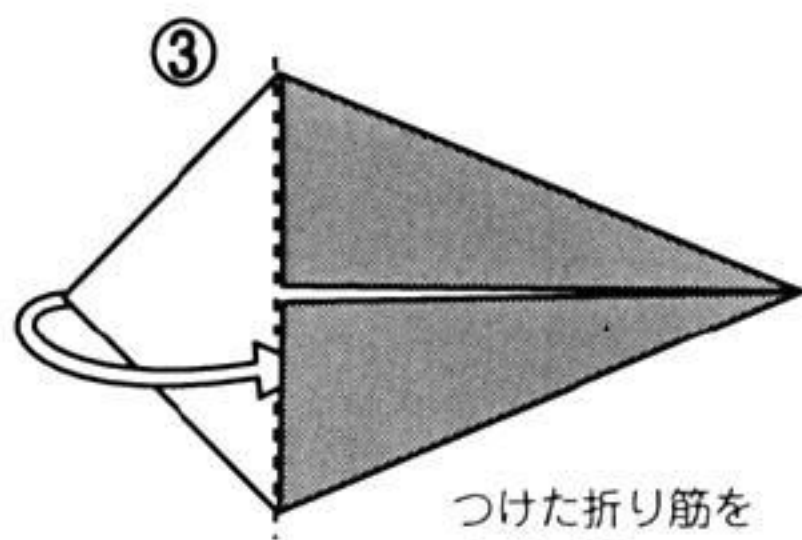
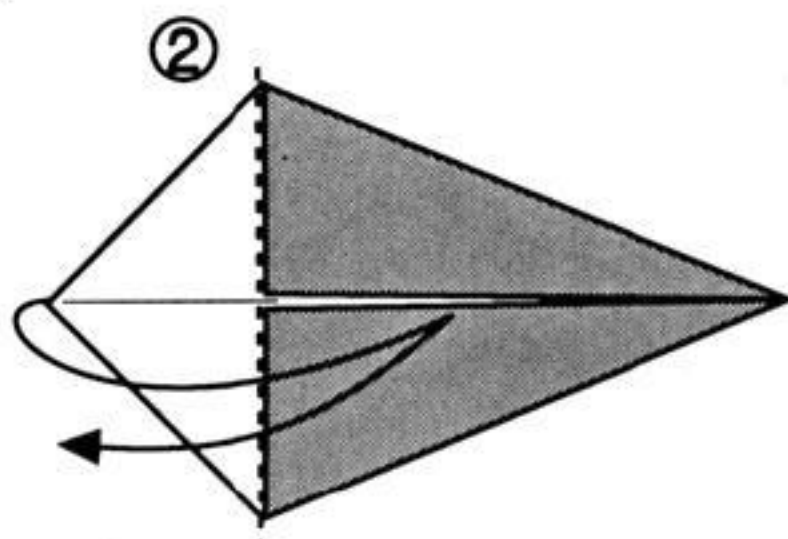
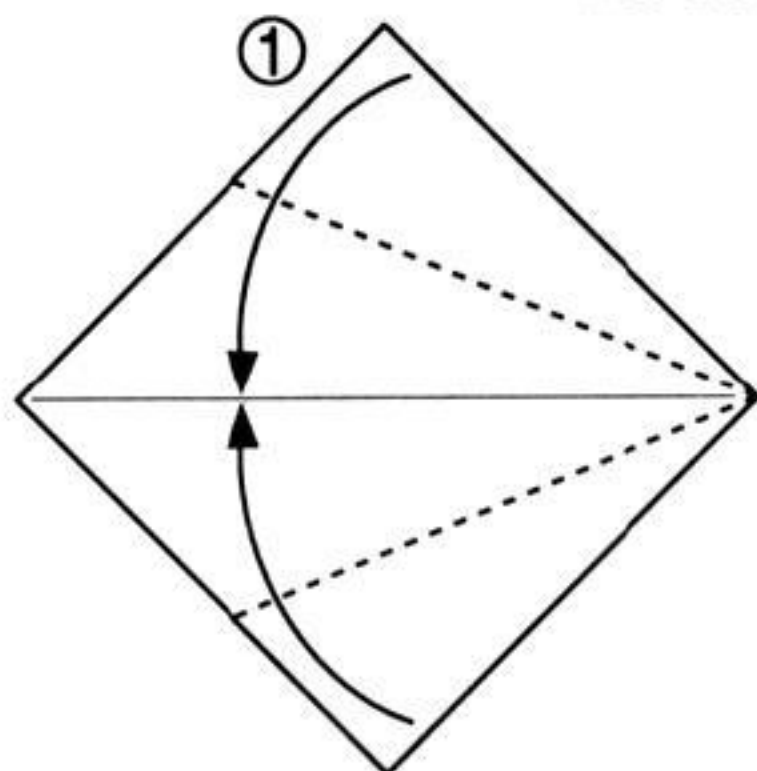
料理長のお褒め料理

今日のメニュー

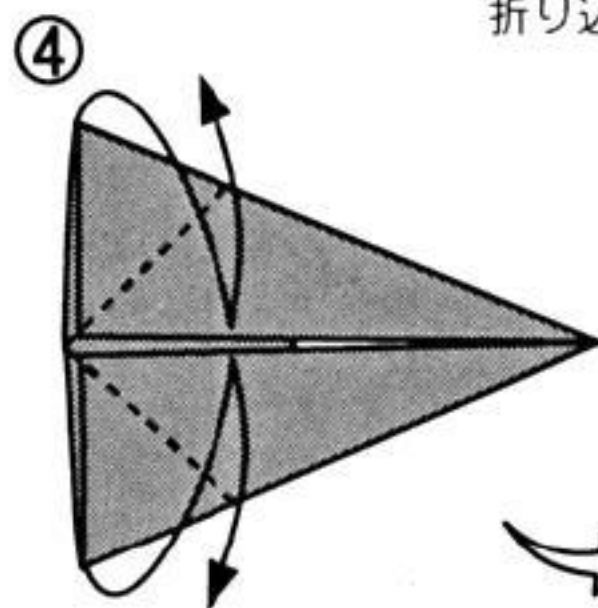
ねずみ MOUSE

山口 真

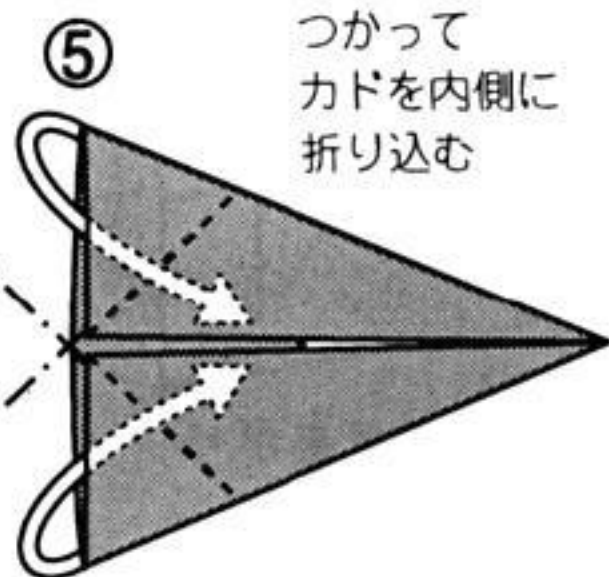
Makoto Yamaguchi



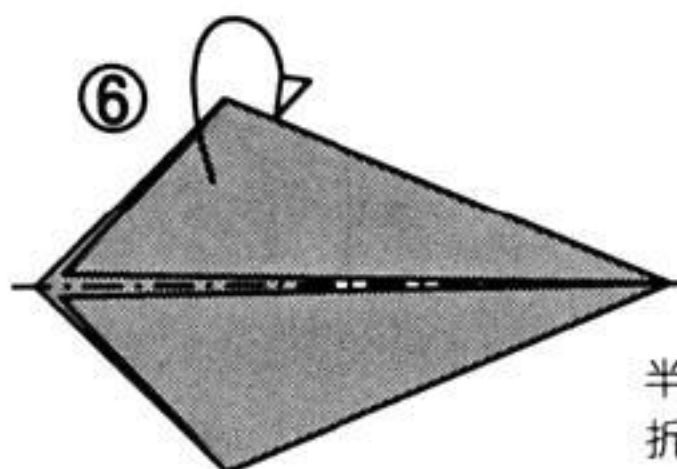
つけた折り筋を
つかって
カドを内側に
折り込む



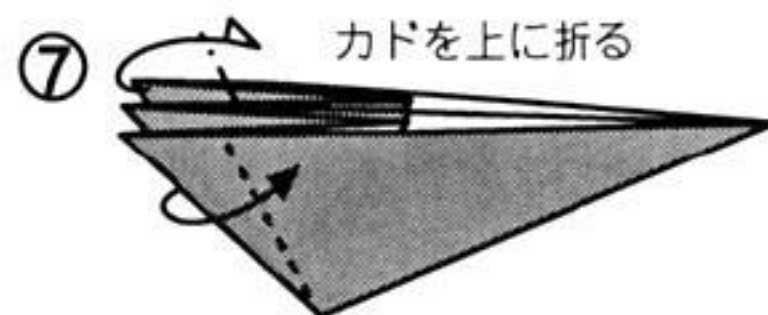
カドを
中心に合わせて
折り筋をつける



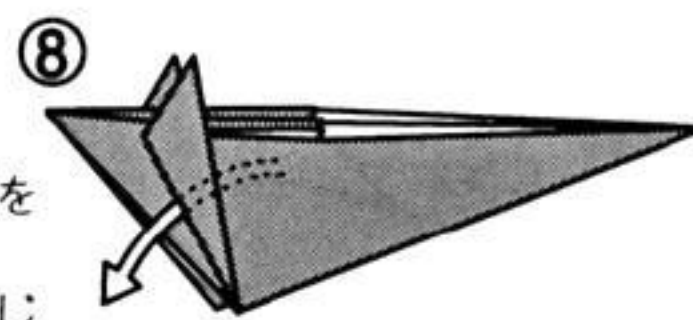
つけた折り筋を
つかって
カドを内側に
折り込む



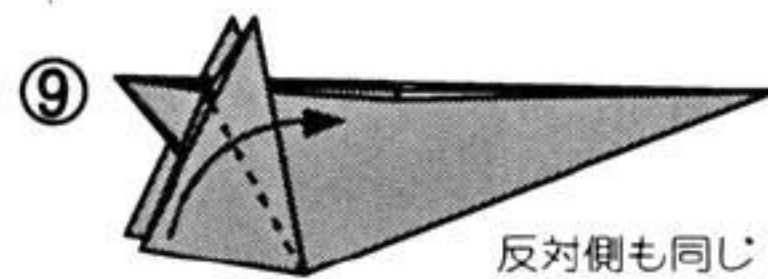
半分に後ろに
折る



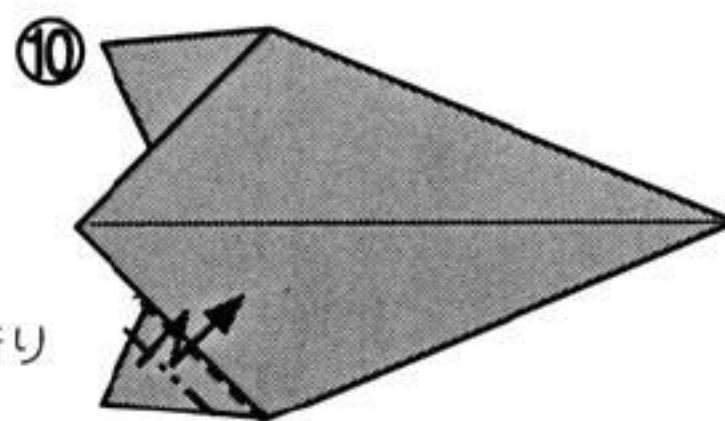
カドを上
に折る



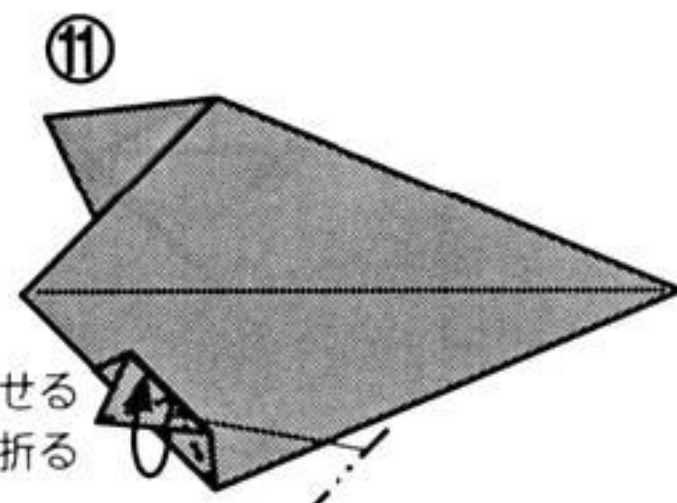
内側にカドを
引き出す
反対側も同じ



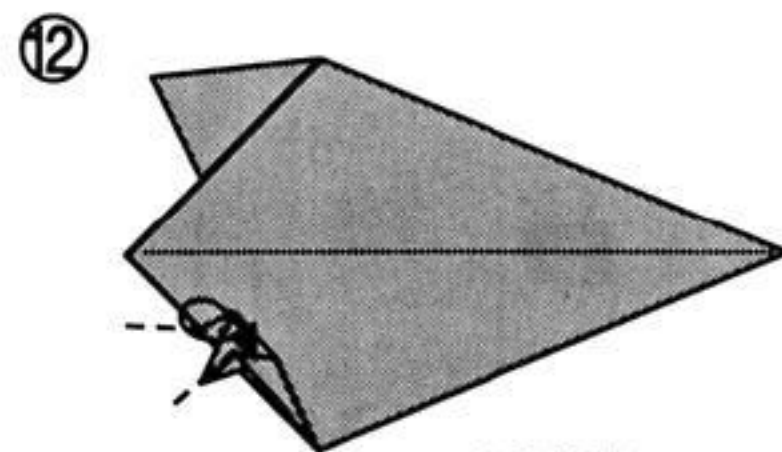
反対側も同じ



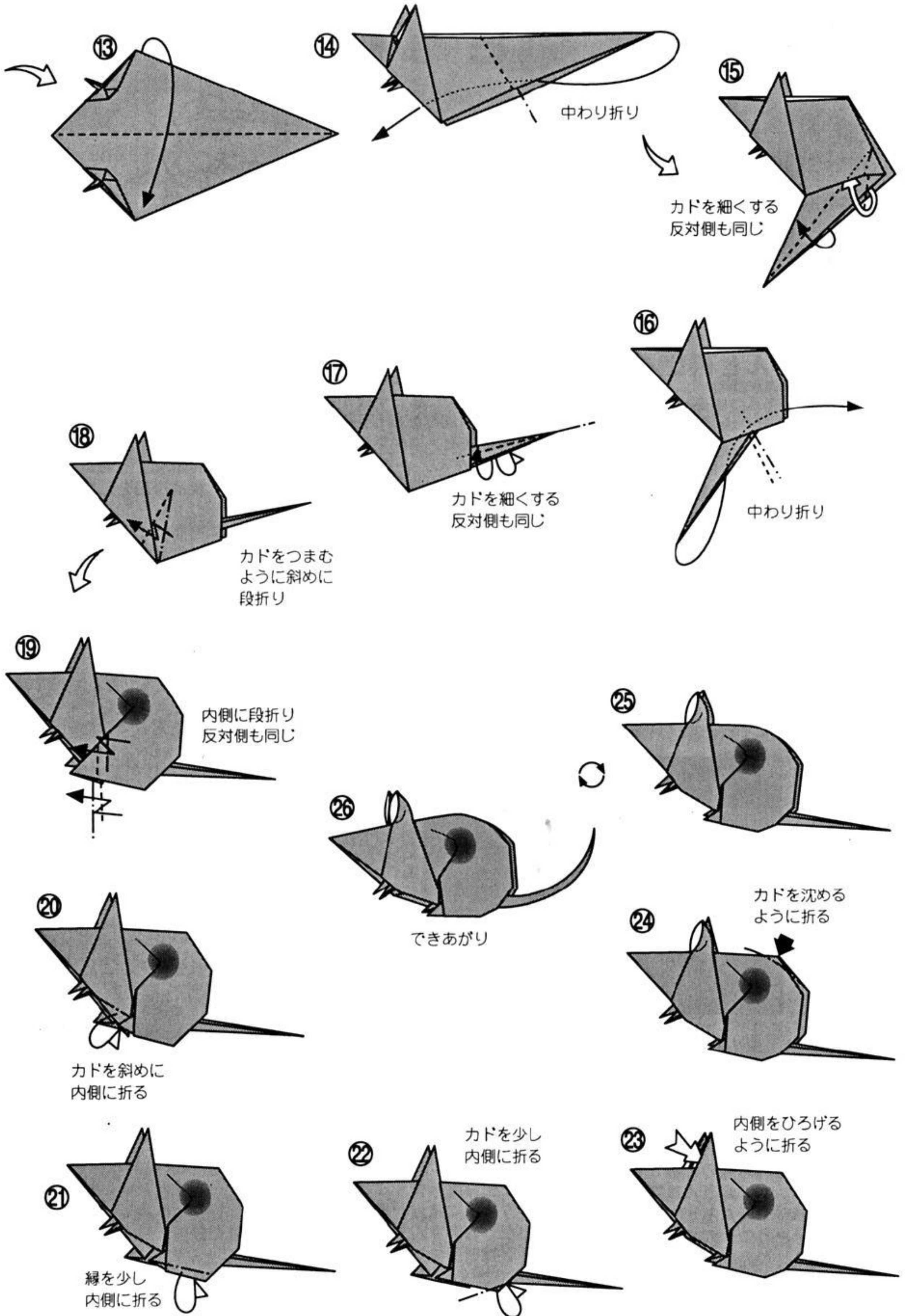
段折り



引き寄せる
ように折る



反対側も
同じ



折紙探偵団 いきなりツアー'95

ぶりてん道中記 後編



北條高史

ついにやってきました、イギリスはヨークのBOSコンベンション会場。前号では折り紙に関係ないことばかりだったけど今回はその反動のせいかノンストップで折り紙ばかりですのでご安心ください。それでは以下後編スタート!!

ブリルさんと再会

コンベンション前日(15日)つづき
時差ボケでくたばりかけていた私はこの日ほとんど一日中「中西さんに英語頼りきり」状態で(すいませ〜ん!!) さらにこの二人は無謀にも地図なしで大冒険してしまった。コンベンション会場に戻ってみると既に受付が始まっているらしく、外人の参加者もかなり集まってきた。

(外人は俺たちか。) あっ、ブリルさんが来てる!! こっちのかわいらしいおばちゃんはアイリス・ウォーカーさん。あのでっかいあんちゃんは誰だろう、少なくとも私の2倍はありそうな背丈(うそうそ)。…ところがどっこいこの人こそがあの“新聞を読む”ヘルマン・ヴァン・グーベルジャンさんだった!! 「をる」の写真では“もの静かな学者風のオジさん”ってカンジだったけど髭がないとこんなに若い。ニカッと笑う口元も目の動きまでもがダイナミックだ、なんせ動

く距離も2倍!! 見た目は静かそうだけど喋り始めると止まらなくなるタイプと見た。

その夜はブリルさんに誘われて、岡村、山口、吉野、北條の総勢5名で近くのパブへ。ブリルさんは探偵団のような折紙愛好者たちが互いによい刺激を与えあうことのできる環境(たまり場?)の存在を羨ましがっていた。山口さん、吉野さんと熱心に語りあうすぐ横で、岡村さんと

北條はこっくり、こっくり…。

グーベルジャン氏の新作

コンベンション1日目(16日)

朝早く、私は魔翁とドラゴンを折り、件のリアルな魔翁とドラゴンを売っていた模型屋へ。これまでお辞儀や「どうも」「失礼」など日本文化の紹介に努めてきた私だったが、本日からは方針を180度転換し苦手な英語を一生懸命喋る。学生でビンボーなのを理由になんとか頼みこんで、店の模型と並べて写真をたくさん撮らせてもらった(前号参照)。会場に戻るとちょうどコンベンションが始まったところ。一時間目は隅谷さん以下5名がそろそろと連れだってブリルさんの教室へ。ここでは最近彼が凝っているという「正方形を半折りした長方形の対角線を使う」ユニット立方体を習った。このとき私はなぜかこげ茶色と深緑、伊藤さんはオレンジの紙で作っており、冗談で二人ぶんの部品を組み合わせ

みたらなんだか永谷園のお茶漬のパッケージのようになってしまった。(本物は黒、緑、黄だけど。)しかしここが“complex”の教室という割には、私達にとっては

簡単すぎるという感じ。折り図も配らない。…というより一人ひとりのぶんの折り図が必要になるほどの作品は扱っていないようにも思える。初心者も気軽に参加でき、作者本人の話を聞きながら直接習うことができる、というほうに重点が置かれているみたいだ。吉野さんも講師として「トラ」(探偵団コンベンション折り図集に出ています)を教えたのだけれど、なかなか折り上がらない人

がいてかなり時間をオーバーしてしまったとのこと。さすがに10人についてあの超難作品を教えるのは大変だったろーなー。(因みに講習のスケジュール表には、吉野さんの教室のところでIssie Yoshinoとミスプリントがあり、これがもとで彼は旅行中伊藤さんから「イッシー」と呼ばれ続ける羽目になる。)

休み時間、お茶を頂きながらダラダラ過ごした(さすが英国、こういうお茶の時間がしょっちゅうあるのだ)のち、展示作品を見てまわる。黄金長方形のトレーシングペーパーに「放物双曲面」を螺旋状にいくつか埋め込んだ作品、こんな構成のしかたがあったのか! 吉野さんの恐竜骨格はやっぱりインパクトあるよなー。あっ、グーベルジャンさんの新作だ!! 白鳥と思われる小さな立体の水鳥が6羽透明の下敷に乗っかっている。「持ち上げて下から見ろ」だって? どれどれ…!! なんと、エンゼルフィッシュのような魚に見えるではないか!! その名も「On the water, Under water」これはやられた!! すごいアイデアだ。シンプルにつくりやすく基本的な構造だけはすぐに理解できたので早速「にらみ折り」。近くで講習の準備をしていた作者に見せると、折り方はこれでいいと言う。「でも、なかなかあなたの作品のようなかわいらしさが出ないのだけれど…」と聞いてみると、ポイントは「ホイル紙で折って形を整えること、そして小さい紙を使うこと」(!!)だそう。…ふと見ると、彼がこれから講習で使う折り図の中に「AIR MAIL」という、封筒に翼のついた形の作品がある。「同じ題名の、似たようなデザインの作品を俺も持ってるぞ!!」と鼻息も荒く自作の「航空便」を折り始めた私は興奮のあまり紙を破いてしまい、「KIRIGAMI~!」と笑われた。このすぐあと彼の教室で“特撮の”隅谷さんは自分では折らずに講習風景を録画、帰ってからビデオを見てちゃんと折れたとのこと。ところで本日、岡村さんは足の調子が悪くてずっと宿舎で休んでいた。



ブリル氏に自作の説明をする骨の一生氏(左)

イギリスの9月は日本の11月ぐらいの寒さ、やっぱり病みあがりの体には少々キツかったみたいだ。…という訳で岡村さんは集合写真に写れなかった（前号オリエもん参照）のだが夕方には不死鳥の如く蘇った。夕食の時間、山口さんはマーチン・ウォールさん作の紙幣でつくるピッチングマシーンという超オモシロ作品を発見、やたらといろんなものを飛ばして遊んで周囲から顰蹙を買っている。あれっ、川上さんがぶーたれてるぞ、なんでも今日は山口さんに頼まれて一日中「季刊をる」の記事のためのインタビューをやっている講習に全く参加できなかったらしい。（またまた前号オリエもん参照。）しかしこれが本日だけですむ筈がない!!

突然講師に

コンベンション2日目（17日）

朝になって突然、講師をやってほしいとの依頼を受けてしまった私。こうした日本では考えられないような、失礼だいい加減だと言われかねないことが起こるのもお国柄というべきか。探偵団コンベンションの対応の丁寧さ、そして前川さんによるプログラムのあまりの完璧さをあらためて実感。（決して怒ってる訳じゃないんだけど…）講習開始のほんの数分前にスケジュール表に書き加えられたためか受講者3名、でもあとあと考えてみると本当にこれで精一杯だったと思う。工程の最後のほうは殆ど「Like this!」だけで済まされたにもかかわらず、一人の落伍者もなく天馬を完成させることができた。優秀な生徒さんたちに助けられっぱなしだったが、図らずも貴重な体験をさせてもらった。

もうそろそろコンベンションも終わりに近い。あちこちで記念撮影が



会場でのスナップ。左から山口、P. ムラティーニョ、吉野、川上、中西、伊藤、N. ロビンソン、ジルケ、R. ビーチの各氏。

始まっている。このとき緊張のあまりムツリ顔だった私は、“Japanese Thoki Yenn”という名誉ある称号を頂いてしまった。（“DNAらせん”の作者トキ・イェンさんはいつでもどこでもムツリしてるんだそーだ。）伊藤さんはかっちょいい兄ちゃんたちとツーショット写真を撮りまくっている。アイリス・ウォーカーさんは参加者に寄せ書きしてもらったサイン帳をそこいら中に見せてまわって「これ、いいでしょ!!」そしてゲーベルジャンさんがくれた「AIR MAIL」手描き折り図のコピー、今回の旅行でいちばん思い出に残っているお土産。

ロンドンに戻る列車は30分以上遅れて発車したにもかかわらず予定時刻の5分前に着いてしまった。もう明日は東京に帰る。あっという間の一週間だった。私にとっては初めての海外旅行で戸惑ったことも何度かあったけど、三日も経てば楽しかったこと以外すべて忘れてしまうだろう。ブリルさんをはじめBOSの皆さんお世話になりました、本当にありがとう。それじゃ、バイバ〜イ!!…と、こんなに順調にことが運ぶわけがない。以下次号、怒涛の特別編に続く!!

恐怖・特別編

前言撤回、今号に特別編まで載ってしまっているぞ。ここまでの謎が今すべて明かされるっ!!（笑）

…さて翌日、空港で荷物検査を済ませて並んでいると、妙なプラカードを持ったスチュワーデスさんがやってきた。今回の便が定員をオーバーしてしまったので、「明日の飛行機でもいいよ」という人をさがしているのだそうだ。（こういうのをボランティア・オフというらしい。）そうしてくれた人にはもう一回ぶんの往復航空券をくれるという。このメンバーがこんなウマイ話に乗らないワケがない!!突然もう一日ロンドンに滞在できることになってしまった。博物館へ行く者あり、ショッピングあり、グリーンパークヘリスを見にゆく者あり、本屋めぐりする者ありと、それぞれにこの一日を満喫したようだ。

翌日、今度こそ本当に帰るぞと離陸して約三十分、北海上空にて突然の機内アナウンス。「ピンポ



ひたすら食べまくる筆者。奥はもっと食べまくる隅谷氏

ンパンポーン、ただ今機体の一部に異常が発見されました。これより燃料を捨て、ヒースロー空港に戻ります。消防自動車や救急車が待機しておりますがどうかご心配なく。ピンポンパンポーン。」!!!!!!これって実はひょっとしてもしかしてとんでもない事態!?胴体着陸かもしれない!!山口さんは娘さんに宛てて遺書を書き始めた。「バージンアトランティック機墜落 邦人8名絶望」の新聞見出しが脳裏をよぎる。…生きて帰れたから笑い話ですんだけど、着陸するまでホントに気が気でなかった。聞くところによると、このときビクビクしていたのは山口さんと北條だけだったらしい…。命からがら(?)空港に戻って次の便を待っていると、誰からともなく「…そういえば岡村さんがアキレス腱を切った時って、探偵団コンベンションで北條君の魔術を習った日じゃなかったっけ?」…ふと思いたって鞆の中をさぐってみると、なんとBOSでの展示用に折った魔術が出てきた!!もうこうなったらただでは済まされない。周囲からの刺すような視線の中、わが魔術は即刻その場で正方形に戻ることを余儀なくされた。その甲斐あったか(?)三度目の正直、やっと無事に成田へ…。斯くして“初めてのおつかい”もなんとかハッピーエンド…と思ったらところがどっこい!!あのとき気が動転していた山口さんは取材のカセットテープを機内に置き忘れてきてしまったのだ!!航空会社から補償金は出たけれど結局テープは見つからない、やっぱり機内掃除係の人か誰かにウォークマンごとネコババされてしまったのだろう…。全くもって惨々な幕切れ、もう二度とバージンアトランティックにはお世話にならないぞ!!…あっ、この往復航空券、本人が1年半以内に使わないといけないうって書いてある…どうしよう?

11月11日(土)白山神社で、「おりがみ供養」(主催:日本折紙協会)が開催されました。この日は、「おりがみの日」という事で記念イベントとして行われました。さて、なぜ11月11日が折り紙の日なのか?それは、私も詳しくは知りません。(何故、私がレポートを書いているんだろう。どうもすみません。)誰か、折紙協会のえらい人にきいてみてください。

さて、当日は、午後1時からという事なので、その頃に白山神社に行きました。

居ます居ます、待合室にお茶を飲みながら、協会のえらい人たちが。(私には、誰がだれだか分からないけど、とにかくえらそうな人たちです。)しばらく、待っていると別室に通されました。ここで神主さんからお祓いを受けました。立ったり座ったり祈ったりだいたい10分ぐらいだったかな。神

主さんは、あの時どんな意味の事言ってるんだろう。きっと、ありがたい事でも言ってるんでしょう。供養される折紙たちに意味は分かるのかな?

おりがみ供養 いってきました



ぼくが供養されたわけではない

近江信一

さあ、次は外に出て「お焚き上げ」です。晴れて良かったです。「お焚き上げ」って結局は、燃やす事によって浄化

するって事なんですよ。このおりがみ供養の場合は、紙だから燃える燃えるすごいですね。そのお焚き上げた折紙は、個人が持ってきた物だから、たかが量は知れているんですけどね。だけど、雑誌「をる」の人が持ってきた折紙は、紙袋3つ分ぐらいでたくさんありました。しかも、そのほとんどは「をる」の中で出てきた物です。「えっ、これ燃やしちゃうの!!もったいないよ〜」という事で、供養される寸前で持ち帰られた折紙たちが多数いました。それに11月11日という時候、七五三でお参りに来ている子供たちもいましたのでこちらにも折紙は、逃れていきました。残った折紙たちはまるでゴミを焼却炉に入れるみたいな供養の仕方では供養されました。それから、終わったと思った時に来た協会のえらい人、時間を間違えて来て片付けだけして行った探偵団員がいた事も追記しておきます。(おわり)

第1回ライブ古典研究レポート

隅谷和夫

去る11月26日、文京区民センターに於いて折紙探偵団新聞の「おりがみ庵」でおなじみの岡村昌夫先生を講師に迎えて「ライブ古典研究」が開催された。第1回は、コンベンションのときのような大事件もなく、天候にも恵まれ30名ほどの参加者を得て「千羽鶴折形」をテーマに行われた。

西川団長の挨拶と講師紹介でスタート。第1部では、「千羽鶴折形」についての概要(著者について、本の成立やそのころの風俗、本当の著者は誰か、折り紙の作者は誰かといった研究成果など)が現物、コピーなどを提示しつつ話題豊富に説明された。レポーターは中学時代の古典の授業を受けているような錯覚を一時受けた。また、国語辞書の編纂をされている為か用語についての話もされていた(「れんかく」「れんづる」「つなぎおり」)。さらに、浮世絵を使用してつなぎ折りの鶴について解説された。正方形の紙が簡単

に手に入る現代では思いもよらないが、その当時は長方形の紙から正方形を切り出して折り紙をしていたのだから、今、我々が考えるほど難しくなかったであろうというのは興味深いことだ。なぜ鶴でしかつなぎ折りをしないのかを説明して終了した。

第2部では、折鶴がいつごろから折られていたかという話からスタートした。配付された資料を使用して具体的に説明された。さすが岡村先生、古典の話が随所に顔を出しながら折鶴の説明が進んでいく。いくつかの千羽鶴は第1部でも名をあげて触れられていたが特に、「八橋」については、ミスプリントがあって折れないが折るためにはどう修正すればよいかの説明までされた。最後に、千羽鶴を折る際の注意とこつに触れられたが、この手の折り紙に興味のなかった人も、一度折ってみようかという気に

させる講演であった。

第3部は質疑応答の時間で、第1部で避けた「鶴鶴」について説明をすることになったが、某シスターズがいなくて助かった。

休憩時間も、実際に資料をまえに雑談して有意義な時間を過ごすことができた。第2回も予定されているので、ぜひ参加されることをお勧めします。



西川団長(左)に紹介される岡村先生。



「第2回折紙探偵団コンベンション」

ORIGAMI TANTEIDAN 2nd CONVENTION

開催のお知らせ

95年4月に行われ、好評を博しました「折紙探偵団コンベンション」を再び開催いたします。

このコンベンションは、折紙探偵団のメンバーが講師となって行う折り紙教室で、2日間にわたって、ひたすら折りまくって、皆で一緒に楽しもうという催しです。比較的易しい作品から超難解作品まで、未発表作品を中心に、作者自らが講師となって解説していただき、折り図を見ただけではわからないテクニックやノウハウといったものを直接教わります。全国の折り紙愛好家との交流を持つこともでき、友好の輪を広げる絶好の機会ともなるでしょう。探偵団のメンバーでない方、初心者の方など、折り紙が好きであればどんな方でも参加することができますので、奮って参加していただきたいとおもいます。

詳細は未定ですが、前回とほぼ同様の要領で開催する予定です。開催は96年5月の第2もしくは第4土

曜日と日曜日の2日間で、場所は文京区民センターの予定です。各教室は定員20名程度、1教室で50分とし難解な作品などは2回を連続して使用することとなります。1日目の全教室終了後には懇親会も予定されています。開催期日、教室の内容、募集定員、参加費等の詳細は決まり次第誌上でお知らせいたします。

様々な趣向を凝らし、前回を上回る、充実したコンベンションとすべく現在準備を進めているところです。楽しみにお待ちください。

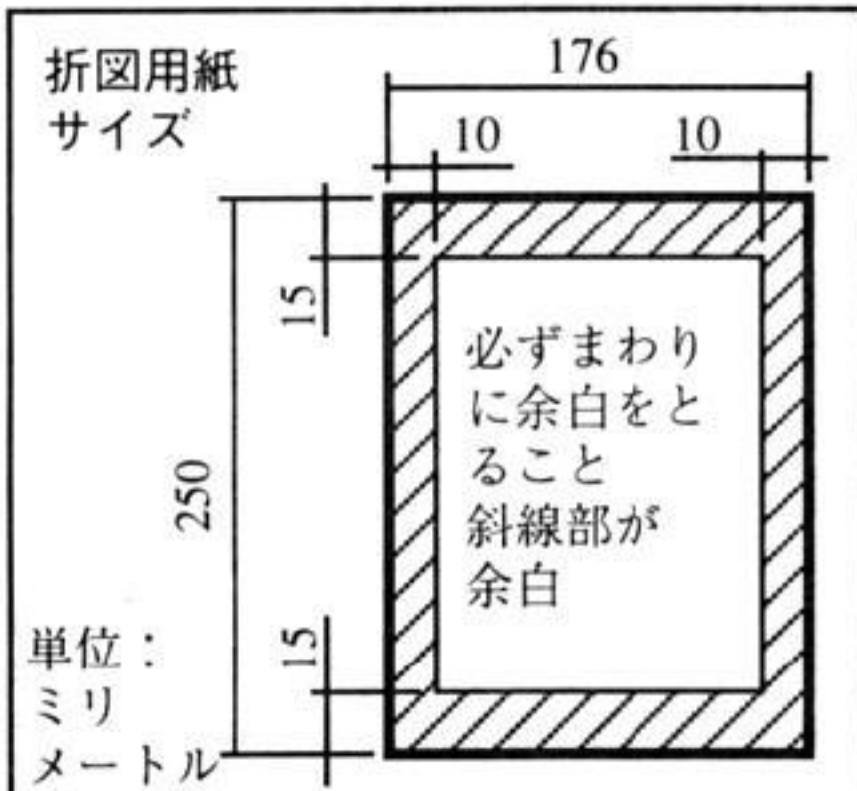
今回のコンベンションでも、前回と同様に折り図集を用意する予定です。そこで、探偵団では、折り図集掲載用の折り図を募集しています。折り図が掲載された方には、できるだけ講師も務めていただきたいと思います。折り図を以下の要領で「ギャラリーおりがみはうす」までお送りください。あなたの自信作をお待ちしています。

○紙のサイズはB5。詳しくは図をご参照ください。

○パソコン、手書きを問いませんが、手書きの場合はフェルトペンなど濃く、はっきりと写るものを使用してください。鉛筆、シャープペンシルは不可です。

○締切は3月末日です。

なお、折り図集のページ数には限りがあり、講師の方の折り図を優先して掲載させていただきますのでご了承ください。



ちょっとイイ話

和久敦也

私の友人である推理小説家、依井貴裕さんの最新作「肖像画（ポートレート）：東京創元社」には、「雪の結晶を折紙で折る大学教授」が登場する。某新聞の巻頭論文を書いている方とよく似ていると思われるが、あくまでも依井氏の創作である。

ついでに言うこの作品には、確実に「ジョン・モンテロール作」をモデルにしたと思われる『象』も登場する。

以上のことから。これは依井さんと私の間に、ラカンの精神分析で言われる「転移」が生じたのではないだろうか・・・などと馬鹿げた結論を導きだす私であった。

しかしくれぐれも断っておくが、この作品に関して私は「おりがみ歳時記」と「トップおりがみ」を資料として依井さんに提供しただけで、「オリガミ探偵団」のコトについては一言も語った覚えはない。

第一私と依井さんは、私が「オリガミ探偵団」のメンバーになって以来この本の完成まで、一度も会っていないのだ！

探偵団員継続手続きと 年会費値上げについてのお願い

第6期の新聞は次号（来年2月発行予定）をもって終了となります。

次期年会費は以下の諸理由により2000円にさせていただきますこと95年11月探偵団例会において決定しました。

1.新聞の印刷を美しくするためレーザープリンタ購入(今期32号までと33号以降を御比較下さい)

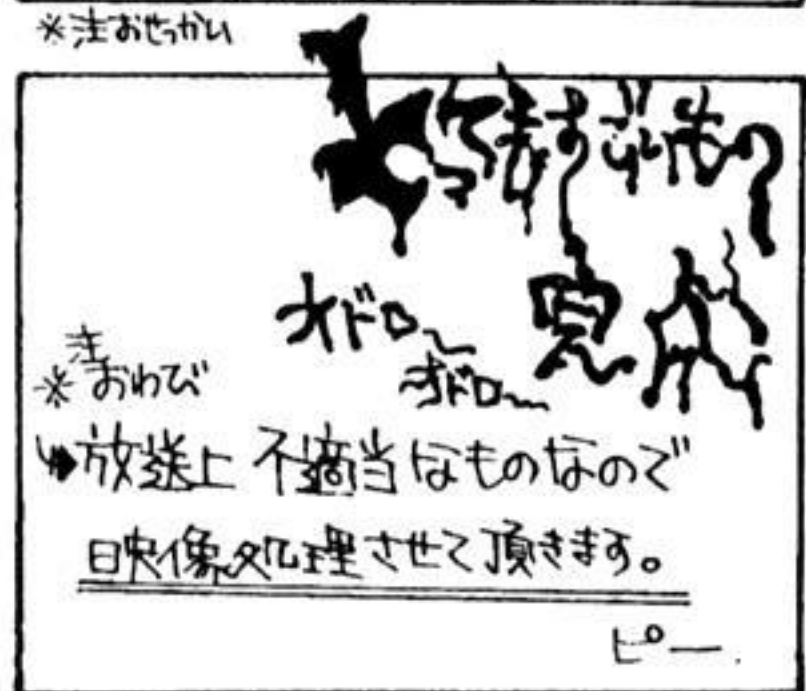
2.かねてからの皆様の強い御要望にお答えして、新聞を折らずに発行するための郵送コスト増(今号・次号はサービスです)

何卒ご了承ください第7期におかれましても、引き続き団員として御参加下さいますよう継続手続きをお願いいたします。



おりがみの日

作 堀江 光



発行・折紙探偵団
〒112 東京都文京区白山5-36-7
ギャラリーおりがみはうす内
Phone (03) 5684-6040
発行人・西川誠司
編集人・岡村昌夫

おりがみはうす

有楽町で
あいましょう

佐藤 暁子

先日、テレビ東京の「情報スピリッツ」という番組に出させていただきました。(関東地方では10月16日放送) おりがみハウスをはじめとする、皆様の御協力、御声援、本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

その放送の内容はというと、ミスしたコピー用紙でコースターを折って、残業している男性社員にコーヒーを出すリサイクルO.L(なんのことだかよくわからなくなっちゃった)という恐るべきヤラセで、会社では、みんなでおもしろがって、楽しみながらやりましたけど、もちろん、普段はそんなことはしていません。私はいつもは、無口で真面目でおくゆかしく、小食なO.Lなのです。応接室にかざってあった色紙は、花札なんかじゃありません。たまたま鹿ともみじが組み合わさっているだけです。

さて、それがきっかけで、1月27日にはテレビ朝日のハイビジョンの試験放送に出演することになりました。この次は、あまり緊張しないで、本当に楽しいという雰囲気が出せたら、よいな、と思っています。この放送は、有楽町のマリオンの中で見られますので、もしお暇でしたら見てやって下さい。

私は、探偵団に入ってから、1年半になりますが、いつも、皆さんの作品には感心させられ、勉強させていただいております。いつか、ずっと歳をとってからもよいから、往生する前の日あたりに、伝承の鶴に匹敵するようなものが、つくれたらよいなあなどと、呑気に考えております。その日を目指しながら、今はその時、その時、つくりたいものを、楽しみながらつくっていきたいと思っています。

新刊書紹介 1月15日発売

■田中具子・著 山口真・編 おりがみはうす刊 B-5版 120ページ カラー口絵8ページ(全作品カラーで紹介) 定価2500円 送料380円(梱包込み) 現金書留か、郵便振替で直接おりがみはうすまで。(振替番号00120-90715400)内容明記の上、申し込みください。

■季刊「をる」誌上で連載活躍中の著者が、はじめて世に出す折り図集。連載も、回を重ねるごとに具子ファンも

増え、田中作品のまとまった本を、という要望に応えた会心の一冊で、全作品31点がカラーで紹介されている。



ギャラリー おりがみはうす 個展案内

田中具子色紙絵折り紙作品集
出版記念「折り紙色紙百花」
作品展 1月5日～2月3日

折紙探偵団定例会の お知らせ

■12月の例会は忘年会がありましたので行いません。

■1月27日(土) 1:00～ 文京区民センター 4階4Aにて。詳細はお尋ねください。

編集後記

○11月11日を「おりがみの日」としたのは、故長野耕平氏の発案によるもので、11と11で正方形を表すこと、またこの日が世界平和記念日(第一次大戦の休戦条約が結ばれた日)であることにちなんだものです。近江君、わかった?